

特216-555



1200700252980

444 东

十五年八月

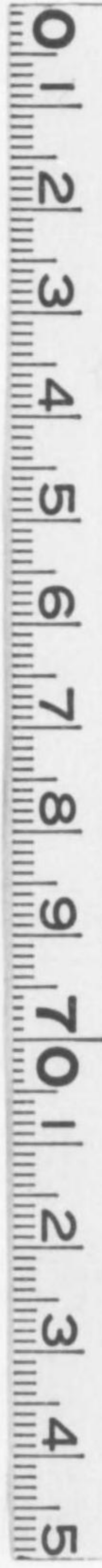
大分縣

處青
女年
會團

(座講)
二第

料資育教會社

輯六十第



始



(進まざるは後るゝなり)

青年諸子の好伴侶
青年訓練所の好参考書

(流れざる水は終に腐敗す)

令 旨

國運進展ノ基礎ハ青年ノ修養ニ須ツコト多シ諸子能ク内外ノ情
勢ニ顧ミ恒ニ其ノ本分ヲ盡シ奮勵協力以テ所期ノ目的ヲ達成ス
ルニ勗メムコトヲ望ム

大正九年十一月二十二日

吾等ノ信條

- 一、教育勅語ヲ奉體シテ熾烈ナル國家精神ノ涵養ニ努ム
- 一、補習教育ノ充實ヲ圖リ日進ノ修養ニ努メ一層心身ノ鍛鍊ヲ期ス

一、獨創及研究的意氣ヲ以テ業務ニ勵精シ能率ノ増進ヲ旨トス

大正十一年十月二十日

大分縣聯合青年團

目次

二枚の畑	小野社會教育主事	頁二二
公民科	今村縣視學	頁二四
國語科	青井教諭	頁二八
地理科	安部教諭	頁三六
理科	寺田教諭	頁三七
實業科	小倉教諭	頁三七
普通選舉の眞精神(課外)	上杉博	頁三七
國防の本義(課外)		頁三七
團報		頁三七
尊い體驗(若人々)		頁三七
縣聯合青年團體育大會		頁四
直入郡嶺嶽村青年講習會		頁六
南海部郡青年大會		頁八
北海部中堅青年講習會		頁八

大正 15.10.5
 丙亥

速見郡中堅青講習會.....

宇佐郡青年團大正十五年八月以後行事.....

運動競技指導講習會.....

勿體な.....



畑の枚二

都近くに一枚の畑がある。地味も日當も風通も申分はない。さるをいくど種子をおろしても瘦芽すら一つふかぬ。よくよく視ると名も知れぬ雑草共が地の下一面に底深く根ばつて、いつも芽生をくひ枯らして行くのであつた。

山奥の一枚畑は地味といひ日當といひさまでよくはないが、同じ種子を蒔いた度にやせなりにも屹度取實がある。無論芽生の妨をするものがないからである。

なるほど純な土地でなければいくどの種子蒔も畢竟徒勞である。
よい苗は多くの場合田舎に育つ。
吾々はつくづく考へさせられる。

(大正一五、八、一〇小野)

本誌の特長

一、本誌は地方青年處女諸子の日常の讀物として、お奨めするばかりでなく、この度設けられた青年訓練所の参考書として好適と信じます。指導者の方が、各講義に肉をつけ香を副へて下さつたら一段風味よくいたゞくことができませう。

本誌の讀者へ

一、本誌は第一講より第十講を以て完結と致します。次は更に新に開講の豫定であります。一講毎に巻を改めますから、全部十冊になります。發行は不定時であります。凡毎月一冊▲見込であります。

一、本誌は縣下各町村毎に青年團處女會に各一冊宛毎號無代配附致します。

個人讀者は 一冊に付郵税共拾五錢(郵税及印刷費) 十冊 郵税共壹圓四拾錢

手数を省く爲に市町村青年團處女會で一まとめにして、責任者を定め住所氏名を明記し前金にて申込下さい。一包にして責任者宛に送付することに致します。

申込所 大分縣社會課 泰久勝宛
本誌は前金申込以外には送付致しません。

投稿者各位へ

一、左記投稿を歓迎致します。

(イ)青年團、處女會の活動狀況(ロ)實驗談(農、商、工等の貴い體驗)(ハ)青年、處女の農村施設に對する改善意見

(ニ)本講座に對する希望、意見及質疑。

二、原稿は一回二十字詰六十行以内

三、郡市町村青年團、處女會名及氏名を明記すること。紙上には匿名差支なし。

四、大分縣廳、社會課宛とし表書に「原稿」文の字を記すこと。

公民科講座

大分縣視學 今 村 邦 夫

第八章 自治の精神

自治の精神とは自ら治める精神である、即ち自分の行爲を責任を以て之を行ひ、他人の力によらずして行動する精神のことである。

此の精神が吾人の日常生活に於て表はれる場合は(一)自律に關する精神と(二)義務を遂行する責任觀念との兩者である。

自律的精神は規律を守り秩序を重んずるの精神が吾人の團體生活に必要であることを自覺して、之を尊重し喜んで之に服従する社會的精神である。規律に従ふ場合に規律に反した時の罰則などを恐れて之に服従するのは他律であつて自律ではない。然して自律的の服従は自治生活の根本要素で文明國民の自治的道德の第一要素である。花は春咲き秋になると葉が落ちる、水は低きに流れ水蒸氣は空中に逃げる。かゝる規律はどこへ行つても變ることはない吾人は之を稱して自然の法則と云ふ。宇宙の森羅萬象一物として此の自然の法則を受けないものはない吾人人類も宇宙の中に生を受けて居るから、勿論自然の法則に支配せられて居る。此の點は他の生物や無生物と何等變る所はない。たゞ人類が他と異なる點は、社會を組織し團體生活をして居るといふことである。爲めに吾人は社會の法則即ち國の憲法、國の法律、風俗習慣等には服従しなければならぬ。之等に對し自律的の服従をなすことが前述の通り極めて肝要である。

自治精神の第二の要素である責任観念は、吾人が團體生活を營む場合に、凡ての行爲を自己の個人的立場から決定せず常に多數の爲、公共の爲、團體の利害如何といふことを念頭に置いて、自分の義務に屬することは徹頭徹尾責任を以て遂行して他を煩し又他に累を及ぼさぬことである。

以上自治精神と責任尊重の精神とは實に自治生活の根源であつて憲政自治の根源は實に此の自治精神を基として發達するものである。

我が國の光輝ある社會生活の進歩は凡て此等の自治精神を修養體驗した結果に俟たなければならぬ。自治の精神は吾人の生活に於ける空氣の如く又水の如く文化國民として缺くべからざる現代社會生活の至寶である。

第九章 自治的公民

公民とは、國民が國家社會に於てその公共生活を營む場合に稱せらるゝ名稱である、故に吾人は團體生活を營む場合には必ず公民としての生活を離れることは出来ぬ。日本には古くから「公民」と言ふ文字はある、公民とは日本帝國の臣民と言ふ意味であつて天皇の赤子と言ふことである、天下「おほやけ」の民と言ふ意義である。吾人の祖先は天皇の臣民として天下「おほやけ」の民であつた、將軍の臣でなく大名の家來でもなかつた、此の意味に於て現在の我が七千萬の國民は皆天下公民である。

然し自治的公民といふ場合には唯天下公民と言ふ意味ばかりでなく自治制度の下に國民が市町村の自治を行ふ場合にその市町村の住民のことを自治的公民と稱する、されば狭く解すれば、今日吾人が公民といふのは市制第九條、町村制第七條にある公民のことを意味して居る。

市(町村)住民ニシテ左ノ要件ヲ具備スル者ハ市(町村)公民トス 但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ

經サル者禁治産者準禁治産者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

一、帝國臣民タル男子ニシテ年齢二十五年以上ノ者

二、二年以來其ノ市(町村)住民タル者

即ち之れである。故に市(町村)制に定められた公民は我國の公民として地方の自治に參與して議員となり名譽職となる権利と義務とがある。

然し社會生活は一つの團體生活である、市(町村)制の中に定められた市(町村)制の公民以外に女子もあり青年も住み、幼年者、老年者も居る、此等の人は市(町村)制に定められた公民よりも其の數に於ては甚だ多い、此等多數の人々が公民の心を以て自治の精神により市(町村)のために盡す考へがなければ國家社會といふ大きな團體生活の理想的發達は望まれない。故に公民精神は老幼男女を問はず殊に青年には最も大切な精神である。

將來の公民は誰であるか、言ふまでもなく青年諸君である。諸君は將來といつても程遠い將來でなく數年内に迫つて來て居る、實に光陰矢の如く歲月は人を待たずに進んで行くのである。「事の成るは成るの日に成るにあらず」とは古人の名言である。近き將來に於て公民として活動すべき青年は公民となつた日に、あわて騒ぐことのないやうに今からその來るべき日の爲に準備しておかねばならぬ。

第十章 自治制度

自治制度とは官治に對するもので國家を治める色々の事務を自ら治める制度をいふ、即ち國家の法律に従ひ各自の考へを以て、自分達の機關によつて國家の行政事務の一部を各團體自ら始末する制度をいふのである。吾人の住んで居る市町村は此の自治の權能を與へられたものであつて、之を自治團體といふのである。

自治の制度は英吉利に發達したものであつて今日に於ては歐米の文明國は皆之を採用して居る。元來自治は人間の本能である、我が國の自治制度は之れに基き、各國の制度を參酌して明治二十一年に制定された。此の時の詔に

「朕 地方共同ノ利益ヲ發達セシメ衆庶臣民ノ幸福ヲ増進スルコトヲ欲シ隣保團結ノ舊慣ヲ存重シテ益々之ヲ擴張シ更ニ法律ヲ以テ都市及町村ノ權義ヲ保護スルノ必要ヲ認メ茲ニ市制及町村制ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム」とある。之れによつても明らかなく自治制の目的として居るところは地方共同の利益を發達させ臣民の幸福を増進する點にある。故に此の制度を運用する時は地方の行政が實際に適切になり費用は節約され人々の公共心を益々強くなるといふ善い結果が得られるのである。

學校の寄宿舎に於て生徒に役員を設けて自治を行はしめることや地方の農會などが農業上の改善を計るが如きことも一つの自治である、此の意味から見れば自治制度の精神は今日吾人が營む社會生活の全部に夫々種々の形に於て行はれて居る、帝國議會も之を大きく見れば國民が國家の政治に參與する一個の自治制度である。

かくの如く自治制度は其の範圍と其の種類とは極めて多いが吾人が自治的公民として最も代表的な自治制度と稱するものは特に市町村の自治制度のことを指すものである。

而して此の市町村自治の發達如何は實に自治的精神の發揮に外ならぬ、此の精神の根本は自分といふものを大きくしてかゝらねばならぬ。自分はたゞ此の肉體だけに限られたものではない。自分の所有物は固より自分の父母兄弟近所隣りの人々、皆自分の中に含まるべきものであり、更に廣くなつては我が故郷全體、府縣全體、國家全體、否宇宙全體が自分となつて來るものである。かやうになつた自分は之れを大我といふ。大我の現はれるところ一として自治的精神ならざるものはない。かやうな自治的精神から發する自治が本當の自治で人間の

あらゆる善行の根本をなすものである。惜しいことにはまだ我國民には自治制度の根本たる自治的精神に缺けてゐる所が多い。第二の國民たる青年諸君は常に猛省すべきこと、いはねばならぬ。

第十一章 地方自治團體

自治團體には市町村の外に半ば官治といふべき府縣もある、又公共組合といつて産業、消費、水利、購買等の各組合とか、水害豫防組合とか、農會、商業會議所とか特別の自治團體もある之等は皆地方自治團體と稱してゐる。地方自治團體を廣く言へば其内には公共團體と公共組合との兩者を含む。公共團體は府縣、市町村、(郡は自治團體でなく今日は既に廢止されて居る)のやうに國家の行政區劃に基いてその行政組織の一部を成すのは自治團體であつて、公共組合は農會、産業組合、購買組合、水利組合等の如く行政區劃に關係なく特殊の目的を有つて居る特別の自治團體である。故に公共團體は常に一定の領域である土地を要件とし住民を其の團體員とする團體である點に於て公共組合と其の性質を異にして居る。

現今の制度で地方自治團體の内公共團體は第一に、北海道であつて北海道會法を設けて北海道の區及町村には區制、市町村制が施行せられて居る。第二に、各府縣には府縣制により府縣自治を行ふて居り各府縣の市町村には市町村制が施行せられ市町村會を設けて居る。第三に、東京、大阪、名古屋、京都等の大都會には區役所を置いて地方自治團體と同様な性質を有して居る。

此等の地方自治團體は自ら國家の行政組織の一部を成して居るから、自ら其の中に上下の階級があつて上級の官廳は下級の官廳を監督するものである。道府縣は上級に位して其の下市町村を監督し更に内務大臣は國家の行政機關として府縣を監督するものである。故に市町村は第一次の監督を府縣知事に第二次の監督を内務大臣に

受けることになる。

郡は従来自治團體であつたが大正十二年以來郡制廢止せられ大正十五年七月以來郡役所を廢止することになつた。故に従来は町村は第一次の監督を郡長に受けてゐたが郡役所廢止の結果市と同じく府縣知事の直接監督となつて事務上非常に簡捷せられ我國行政史上の一大改革である。されば、その改革の根本精神たる自治の尊重及擴張を體得して此の改正の精神に副ふやう努めなければならぬ。

近時公民教育の唱導せらるゝ一つの理由は郡役所廢止に伴ふ自治の精神を充分了知して地方自治の發達をはかる爲である。思ひもよらぬ關東の大震災のために有史以來の空前の大損害を蒙つた我國の將來を負うて立つべき吾人青年の任務は實に重いのである。吾人青年は先づ吾人の前途が困難であることを覺悟せねばならぬ。併しなから其の困難は決して打ち越へ難いものではない。さうきことの猶この上に積れかし限りある身の力ためさん」との「意氣」をもつて當れば如何なる難事をも突破することが出来る。至誠は鬼神を泣かしめるといふこの旺んな意氣を以て居る青年が至誠を以て突き進むところに此の難事の將來は燦然たる光彩を放つて吾人を迎へるであらう堅い覺悟、旺んな意氣、天地を動かす至誠をもつて居る吾人は協同一致相團結して將來自治の美果を收めなければならぬ。

第十二章 市町村の自治

市町村とは土地、人民及自治權を持つて居る自治團體のことである。恰も國家が土地、人民、統治權の三要素から成立して居ることによく似て居る。かくの如く市町村は土地、人民、自治權の三つを具備してゐる自治團體であるから、市町村に屬する公共の事務は自ら之を處理しなければならぬ。

しかも市町村に屬する公共の事務は極めて其の範圍が大であるから市町村には市町村民の意思を代表する機關として市町村會といふものを設け、市町村民、市町村を代表する市町村長を選挙して市町村の行政を爲さしめ、又市町村住民の權利と義務とを定める市町村條例を定め、又市町村の營造物(公會堂、避病院)の使用に就て規則を設けることを許されて居る。此等を市町村の自治の範圍といつて居る。

市町村は一面に於て國家の行政區劃を成してゐるから國家は國家の行政事務である兵役とか納税等の事務を市町村に委任して居る之れを委任事務といふ。市町村内の道路を修理するとか、傳染病を豫防するとかいふ事務は市町村は自治團體として當然處理しなければならぬ、之等本來の事務を固有事務といふ。

市町村内に住所を有して居る人民は勿論その市町村の住民であつて市町村の團體員であるから、その市町村全體の一分子としてその市町村の自治權に服従して市町村制の規程によつて一定の權利を與へられ又義務を負担せしめられる。此の場合の權利といふのは、市町村の自治に參與し名譽職に選挙せられ又は議員を選挙する公民權は勿論、市町村の財産や營造物を共用する權利であつて、義務とは名譽職を擔任し、市町村税を負担する等である。

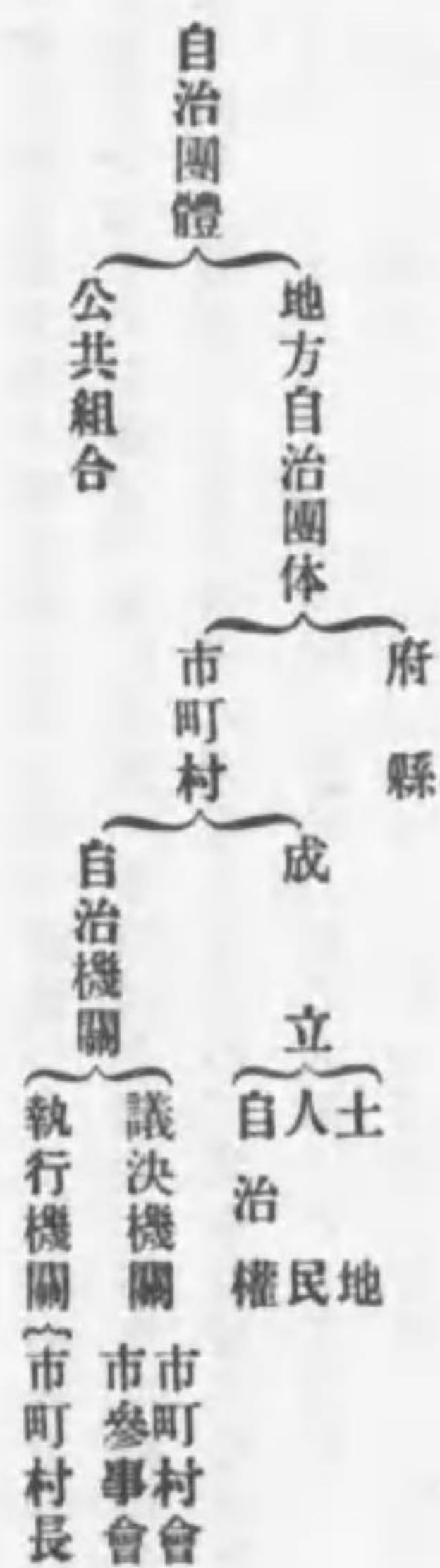
市町村の自治を行ふ機關は議決機關と執行機關である。議決機關とは市町村會であつて市町村の公民から選挙せられた市町村會議員によつて組織せられたものである。而して其の定数は其の土地に居住する人數によつて異なる。例へば市會議員は人口五萬未満は三〇人五萬以上三十六人、町村會議員は人口千五百未満は八人、五千未満は二人、一萬未満は一八人、二萬未満は二四人等である、執行機關とは市町村を代表して市町村の行政事務を執行するものであつて市町村長と其の補助機關である。

町村長は町村會によつて選挙せられ一町村を代表して町村の事務を執行するものであるから町村治政の中心と

なる。そして助役収入役吏員等の補助機關を使用して(一)町村の公共事務一切を執行し(二)町村會の議決した決議を執行し(三)町村豫算、決算、其他町村會に提出すべき議案を調製し(四)町村財産及營造物の管理を行ひ(五)其他收入、支出の命令、會計の監督、租稅、手数料の賦課徴收等を行ふのである。

町村會は町村制の規程によつて(一)町村の公共事務に關する一切の事件を議決し其の議決した事項が如何に執行せられたかを監督し(二)町村條例と町村規則を定め(三)町村の豫算、決算を認定し又は議決し(四)租稅、使用料、手数料の賦課、徴收をなし(五)町村財産、營造物の管理、處分等を行ふものが其の主要な任務である。

されば町村自治の完全なる發達をなすには議決機關である町村會と、その執行機關である町村長との間に最も圓滿なる關係を保つて常に公正なる精神を以て協同一致して團體の進歩發達のために盡さなければならぬ。然るに動々もすると此の間に政黨的弊害によつて公正なる判斷、公正なる處置を誤ることの多いのは人情の弱點であるかも知れぬが自治の發達を阻害するもので排斥すべきことである。由來大分縣は全國から眺めて政黨的知識は最も進歩し爲めに我國の政界には多くの人材を擧げて居る、此の點は大いに慶賀に堪へぬがまたその反面にはその弊害も他縣に比して可なり多いやうに見受ける。之等の缺陷を補ふには多言を要せぬ唯公正なる精神！換言すれば正義の觀念養成である。



第十三章 府縣の自治

府縣は市町村と同じく自治團體で土地、人民及自治權から成立つて居る地方自治團體であつて市町村の上に位して自ら國家の行政區劃をなして居るものである。此の府縣制は明治二十三年に始めて我國に施かれ當時は三府七十二縣であつたが今日は三府四十三縣に減せられて居る。之は交通機關の發達によつて地域が縮少せられ且つ一般文化が進歩した結果による。

府縣の自治は法令の範圍内によつて地方の公共事務を取扱ふ精神に於ては市町村と同一であるが、其の自治の範圍は之を市町村に比較すれば非常に狭く定められて居る、即ち(一)府縣は市町村の如く市町村條例を定めることは許されぬ(二)行政事務に關しては直接公民から選舉した名譽職をして之に與らしめることは極めて少ない。之等は市町村と府縣自治との大きな差異である。近時知事公選といつて知事を府縣の公民より選舉すべしとの輿論が起つて居るが、かくなれば余程市町村の自治と接近し自治の本領を發揮するに好都合かも知れぬが實現はなかなか困難であらう。

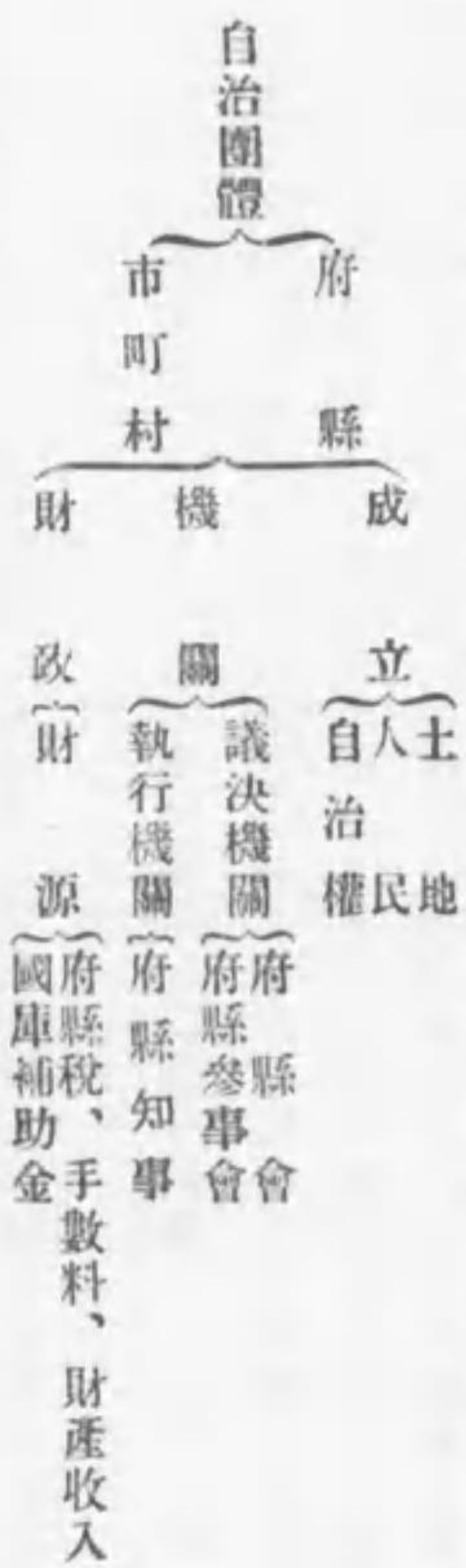
府縣の自治に與かる機關は又市町村のそれと同一組織によつて成立する。府縣會は府縣會議員によつて組織せられた議決機關で府縣知事は國家の行政機關として又地方官廳として府縣の行政に當ると共に又他の一方に於て地方公共團體の自治に與かるものである。

府縣會議員は府縣の人口の多少によりて之を定むることになつて居る。即ち人口七十万未満の府縣は議員三〇人、七十万以上百万未満の府縣は七十万以上五万を加ふる毎に一人を増し百万以上の府縣は七万を加ふる毎に一人を増すべきものとす。故に本縣は人口約九十餘万であるから議員數は三四人(一名缺員)である。府縣會の任務は府縣の財政に關する事項について議決をなし、其の他豫算、決算、租稅の賦課、徴集、府縣財産及び營造物の

管理等をなすことが其の主なる事項である。此の點は町村會の任務によく似て居る。

府縣の議決機關として町村の議決機關以外にあるものは府縣參事會である。之は府縣知事、府縣高等官二名、名譽職府縣會議員によつて組織せられ、府縣會から委任せられた事項を議決し、或は府縣會に代つて急を要する事件を議決することをその任務として常に府縣會の議決を補充するものである。

府縣知事は、國家の地方行政官廳として、國家の行政事務を取扱ふ點に於ては國家の地方行政機關であつて、他の一面に於て、地方の自治體である府縣の代表となり、府縣を統轄し、府縣の議決機關の決議を施行する點に於ては地方自治體の執行機關となるものである。府縣知事及其の補助機關の有する任務は市町村の執行機關として市町村長の有する任務と同様で、府縣會の豫算、決算其の他重要な議案を提出し、其の決議を執行する外、府縣の財産、營造物の管理、收入、支出の命令、會計の監督、租税、手数料の賦課徵集等を行ふものである。



第十四章 府縣の行政

府縣の行政とは府縣知事が地方自治團體の執行機關として行ふ行政と、此の自治團體に關係なく地方行政官廳として行ふ行政と二つがある。

府縣の地方行政を行ふ機關は唯一人の知事であつて、知事は主として内務大臣の命令を受け其他文部、農務、商工、大藏等の各省大臣の監督をも受けて府縣の行政事務を掌るものである。府縣知事(勅任待遇)の官署は府縣廳であつて其の補助機關として、内務部長、學務部長、警察部長、事務官等の奏任官及視學、屬、警部其他技手通譯等の判任官及巡查等の判任待遇者を置いて府縣の行政事務を行ふものである。府縣知事の補助機關は左記の通りである。

府縣知事—内務部長—學務部長—警察部長—事務官—警視—視學—屬—警部—技手—通譯—警部補—巡查
府縣中東京は警視總監を置いて警察部長を置かない、又大正十三年迄は東京、大阪、京都、兵庫、愛知、神奈川、福岡の三府、四縣に産業部長を置く制であつたが之を廢止した。

府縣の行政事務中内務部は(一)議員選舉に關する事項(二)府縣行政及市町村其他公共團體の監督(三)土木に關する事項(四)會計に關する事項(五)農、工、商、森林、水産に關する事項(六)度量衡に關する事項(七)衛生に關する事項(東京府に限る)を掌り内務部長が知事を補助して居る。

學務部は(一)教育學藝に關する事項(二)社寺兵事に關する事項(三)社會教育及會社事業に關する事項を掌り學務部長が知事を補助して行政事務をなす。

警察部は(一)警察に關する事項(二)衛生に關する事項(三)工場監督に關する事項を掌り警察部長が知事を補助して居る。

以上内務、學務、警察の各部長は各部分掌の府縣事務を掌り其の下に事務官を置く事務官は庶務課長、社會課長、社事兵課長等となつて上官の命を受けて一般事務に當る、警視は警察事務を視學官(現制では學務部長兼務)及視學は教育事務を、技師、技手は技術を掌り、屬は判任文官として一般の事務に當る。警部、巡查は警察

ふものが、何時の時代から始まつたものかは知らないが、大師の教門を弘くする上から言つても、各自の信念を厚くする上から言つてもよいことだと思ふ。そればかりではない。お遍路さんは到る所で愛せられる。又恵まれる。お遍路さん同士も亦互に遍路であると云ふことのために信頼する、又扶助する。是が實に善い事だと思ふ。未知の人達が道連になつて親しんで、行く路を教へ合ひ、足らぬ物を足し合つて行く。お遍路さんが路傍の家に荷などを置けば、どの家でも喜んでくれる。決して紛失しないといふことだ。是は遍路としての誰もが、一つの眞實の道に繋がつてゐるといふ意識から來るのだ。此の道に參ずるには、知識も修養も資格もそんなものは何もいらぬ。婆さんでも娘でも男でも子供でも、たゞ一つの道を信する事に依つて、此の尊い心持に一致すること出来るのだ。是は實に美しい事だ。争闘と欺瞞に満ちた社會の中にあつて、信頼と扶助とに心を合せて行き得る事ほど、美しい事があるであらうか。此の島の春を賑はすお遍路さんは、繪としてのみ美しいのではない。彼等が愛し合ひ信じ合ふ事に生きるが故に美しいのである。

而して此の事は獨り彼等お遍路さんの上の事のみではない。私達は皆人生の遍路である。銘々に自ら負はねばならぬ物を負うて、自分の名前を書いたのを播散らしながら、自分々々の路を遍歴してゐるのである。しかも私達の周圍には、此のお遍路さんに見る様な信頼と扶助とが行はれてゐるであらうか。私は思ふ。私達は此のお遍路に學ばねばならない、遍路といふ行事をのこした弘法大師の暗示を感じなければならぬ、而して人間の悉くがお遍路さんの心を心とするまでに到らないとも、私達はまづお遍路さんの信と愛とを以て、人生を歩き度いものであると。

(註解)「山莊」山の麓で山の麓である。「山莊」山の中の別荘をいふ。「弘法大師」本姓は佐伯氏で讃岐國仲多郡屏風が浦の人であつた。眞言宗の開祖で學徳共に高い聖僧であつた。「靈場」神佛の靈驗あらたな地をいふ。併し此處では弘法大師が開かれた寺で大師に關係の厚い寺をいふ。「功德」善行をしたのに對する恵をいふ。積善の力をいふ。「島四國」四國八十八箇所を靈場を置似て小豆島の中に八十八箇所の靈場を作つた。

ものである。小豆島は香川縣に屬してゐる島で今は此島一島で一部をなして小豆郡といふ。「上庄港」小豆島の西岸にある港で土庄町といふ。「菩提」菩提樹の葉である。「塔婆形」刻んだ金剛杖。塔婆は卒塔婆の略で高麗といふ意味がある。即ち高く頭はれてゐる塔である。死者の骨を納れた所の標に立てるものである。こゝではそと形に刻んで作られた杖をいふ。金剛杖とは白木の八角又は四角の杖で修験者などが持つもの。「それは繪である」それは繪のやうであるの意。「信頼」信じてたよりとすること。「扶助」助けること。「眞實の道に繋がつてゐるといふ意識」自分らは佛の示された誠の道に關係してゐるのだといふ考をいふ。若し道に外れた詐なことをすれば佛の道に外れる。佛の助は得られないといふ信念をいふ。「市無大師」遍路金剛。南無とは壽命といふ意味で佛のために命をささげて信仰すること。大師は弘法大師をいふ。遍路は通く照らすといふ意で大師の佛徳の到らぬ所もなく照らすこと。金剛とは堅固にして容易に變らぬ動かぬ信仰をいふ。全体の意は深く大師の佛徳を仰ぎ不變不動の堅い信仰心を持つて歸依するといふ意味である。「人生の遍路」我々が社會に生活して行くのを遍路に例へたのである。社會に出たのは礼所の巡り始で、死ぬのは礼所の終であるとも見られる。「銘々に自ら負はねばならぬ物」愛は人が此の世に生るればそれだけの職分とか、天分とか使命とかを持つて生れてゐるのを云ふ。誰でも職業仕事といふことがなくてはなすむものはない。それ／＼に負はされた、分擔仕事といふものを持つてゐる。是を盡さぬものは遊民である。賊子である。「自分の名前を書いたのを播散らす」自分でした仕事をそれ／＼自分の名で世の中に出して行つて居るのである。即ち自分の作つた、庭とか、生糸とか、米とか、それ／＼に自己の銘を打つて世に出してゐるので、自分の責任といふものを爰に深く／＼感じずには居れまい。「自分々々の路を遍歴してゐる」各自の職分について活動してゐることを指したものである。

第六課 青葉の笛

此の文は文學博士東京帝國大學名譽教授森野山之先生の文である。

平家が一の谷の軍に敗れて、われ先にと落ちて行く時の有様は、晩春の夜嵐に逐はれて、花といふ花が一齊に枝を離れ、行方を定めず空に舞ひあがるやうであつた。

(註解)「われ先にと落ちて行く」人に後れない様に先を争うて逃げて行くこと。「行方」ユクへと讀んで行くべき方向をいふ。

この混雜の間に其處彼處に於て、随分目も當てられぬやうな大悲劇が演ぜられたが、こゝに武藏國の住人熊谷次郎直實は、平家の公達が助船に乗らうとして、海岸に續々落ちて行くのを見て「天晴れ好い大將軍と引組んで功名をしよう」と思ひ、細道にかゝつて途を急ぎ濱手の方にやつて來た。

(註解)「大悲劇」大きな悲しい芝居である。悲惨な事を劇に例へて云つた詞である。「公達」年の若い公家の人々をいふ。「天晴」は感動の詞。すると安に練絲の絹に、鶴の刺繡をした直垂に萌木匂の鎧を着、鍬形に打つた兜の緒を締め、黄金作りの太刀を佩き、廿四さした截生の矢を負ひ、滋藤の弓を持ち、連銭、革毛の馬に金覆輪の鞍を置いて乗つた一騎の若武者が、沖に居る船を目掛けて馬をさつと海に入れ、はや十間ばかりも向ふに泳がせた。丁度その時濱にやつて来た熊谷は、それを見るより鎧を踏ん張り聲をあげ「其處に御渡りあるは平家方の大將軍と見たてまつる、敵に後を見せ給ふか、返させ給へ」と扇を上げて招くと、其の人は健氣にも駒の首を立て直して此方に返し、汀に上らうとする所を、熊谷得たりと、波打際で馬上ながらにひんず組著き、馬と馬との間に二人はどつと落ちたが直實は苦もなく敵を組伏せて動かさず、首を掻かうとして兜を押除けて見ると、こはそもいかに野獸のやうな坂東武者の眼には、「地上の世界にこんな美しい人が居るであらうとか」と疑はれるほどの美少年。正しく平家の公達と見えて、花のやうな顔に薄化粧し、齒は黒くと鐵漿に染め、玉なす眼の涼しさよ、年は我が子の小次郎と同年代で、今年丁度十六七、薰物のえならぬ香氣が鼻をうつて、熊谷にはどうしても、之が敵とは思はれぬ。寄せては返す、浦波の、濱邊の白砂に組敷きながら直實は問ふた。「そもや御身は如何なる御方にて渡らせ給ふぞ。名のらせ給へ、助けまゐらせう。」「まづさう云ふ和殿は誰ぞ。」「武藏國の住人熊谷次郎直實と申すものでござる。」「さては汝が爲には好き敵ぞ、名乗らずとも首を取つて人に問へ、後で必ず分るであらう。」「と云つて靜かに目を閉ぢ、既に覺悟の體である。熊谷は取つて押へた手が弛み「天晴れ好き大將軍ぢや。今日この際この人一人を討つたからと云つて、負ける軍に勝つべき筈がない。また助けたからと云つて、勝つ軍に負けさうな事はない。貴賤の別なく子を思ふ親の心は人も我も同じこと、思へば今朝一の谷の西門で、我が子小次郎直家が少々薄手を負うた時でさへ、我は親心に我が肉を殺がれ我が骨を削られるやうな思がした。この君此處にて討たれたと聞き

給はゞ、いかに戦場の習とは云ひながら、兩親の御悲歎はいかばかり。よし、窃かに助けまゐらせう。」「と決心し四邊を見れば、幸ひ敵も味方も居らぬ。熊谷急に引起し、砂を拂つて沖に見ゆる一番近い船を指し、「彼の船に早く馬を泳がせ給へ。」「あ、今の間に少しも早く」と促すまゝに若武者は目禮し、馬に乗らむと鎧に片足かけた。

(註解)「練絲の絹」練絲とは練つて柔くした絲をいふ。その練つた絲で織つた絹をいふ。練らない絲を生絲といふ。「萌木」武士の着る服である。方面であつて袖には袖ぐりがある頭には烏帽子をかぶるのである。「萌木匂の鎧」萌木色の絲でをぎしたもので上程濃い色に下になる程色を薄くしたものを云ふ。「鍬形を打つた兜」兜の前には二本の鍬を立てた様にした立物で、大將の兜につけるもの。「黄金作りの太刀」黄金色の金で飾つた太刀をいふ。「廿四さした截生の矢」箭に二十四本の矢をさしたのを云ふ。截生の矢とは箭の羽の黒と白とが一段おきに斑になつてゐるのでつくつた矢をいふ。「滋藤の弓」弓を藤で一丈位の長さに巻いたものが、握の上を三十六箇所、握の下を二十八ヶ所巻いたものを云ふ。要するに藤で一丈位の長さに巻いた所が巻く多きものである。「連銭草毛の馬」草毛とは白に黒のさしげのある毛をいふ。連銭草毛とはそれには圓い黒色の斑の形の入つたもので丁度錢の形を散らした様に見えるから、連銭草毛といつたのである。「金覆輪の鞍」馬の鞍の前輪と後輪との山形の所に金色の金で縁とつたものである。即ち金色の金を細く覆せるものを云ふ。「健氣」殊勝なこと。かび／＼しいこと。「駒の首を立て直し」駒の首の方向をかへること。「首を掻かうとする」首を切ることをいふ。武者は敵を切ることはなんでもないこと、丁度掻く位たやすといふので切ることを掻くと云ふのである。「薰物」名香を薫いて其の香をよく兜などに浸みこませたものである。昔は今の様に香水などがなかつたから、昔香はかうして衣服などに香をつけたのである。「えならぬ香氣」並ならぬよい香をいふ。「和殿」對稱の代名詞である。「目禮」目の様子で敬意を表すること。

此の役の時殆ど同時に土肥、梶原、平山などが五十騎ばかり、濱邊傳ひに飛んで来る姿が間近く見えた。熊谷は遺憾至極「あゝ、御運の末か、是非もなや。」「と歎じてはら／＼涙を流し、「あれ御覽あれ、生憎と味方の勢が参つたわ。いかにもして助け参らせようとは思へども、彼等が來てはよも遁しまゐらせまい。おなじくは我が手にかけて討取り奉り、せめては後の御追福なりとも懇切に……………」遁れぬ所と若武者も胸を据ゑ「おなじくは我が如き情ある武夫に我が首は授けたい、いで……………」と手綱を放し西に向つて白砂に坐し、早くも凝然と玉の如き眼を閉ぢる。「然らば御免。」「熊谷心を鬼にしてすらりと太刀を抜放つ。

〔註解〕「是非もなや」しかたのない事よの意。「後の御遺願」死後の幸福を祈ること。「佛に回向すること」「凝然と」是は下の閉ぢるといふ語にかよつてある語である。意味は精神を散らさぬ様に落つてゐること。心に佛を念じて深く死を覺悟してゐるのである。

君を惜しむか龍神の磯うつ波の音高く、濱邊を風の立騒ぐ。熊谷早くも後に廻り「南無阿彌陀佛」唱へも果てず、紫電空に跳つたが、我も子を持つ人の親、白刃の下に合掌して凝然と動かぬ花の容顔、雪の肌、餘りに無慚でいぢらしくて何處に白刃を當てやうも無い。「あゝこの君を討奉るは、いかに過去の宿縁ぞや」目もくれ心も消果て、直實は前後不覺。

〔註解〕「龍神」海の神。「紫電空に跳る」紫電は刀の光を電光に例へた語、即ちピカリと刀を上にあがつたことである。「無慚」いたはしいこと。「いぢらしく」かはいさうなこと。「過去の宿縁」前の世からの因縁をいふ。「前後不覺」前後も知らぬ程に途惑すること。

土肥の次郎を先として、續く梶原、平山の武者所砂煙を上げて飛んで來た。「今は。」再び氣を勵まし、「わゝい。」「首は前に。鮮血見る間に白砂を染め、花は散りけり須磨の浦。

熊谷茫然として太刀を提げ、死體を前に凝然と突つ立ち、眉皺めて夢心地して居ると、習々と耳を掠めて哀を吹き行く一路の春風、主なき駒の獨り嘶く。「やあ熊谷殿には好き敵と組まれしよな」横をつと馳せすぎさまに言ひ棄て、他の働さには目も止めず、土肥等は各自好き敵を捜して向ふに駆去つた。

〔註解〕「土肥の次郎」土肥實平のこと。「梶原」梶原景時のこと。「平山の武者所」平山季重のこと。武者所とは院の北面の侍が伺候してゐる所をいふ。平山季重は北面の武士であつたから云はれたものであらう。「凝然と突つ立ち」すつくとすくんだ様に立つてゐること。「習々」やはらかに吹く風をいふ。「一路の春風」一筋の春風をいふ。

直實は我に復り「あゝ弓矢取る家には生れぬものぢや。我武藝の家の人とならずば、今日かうした憂き目は見まいものを、情なくも終に討取り奉つたか」涙は情の記念である。鬼を酔で食ふ坂東武者も、鎧の袖を顔に押しあて押しあてさめくと泣いて居たが、首を包まうと思つて、鎧や直垂を解いて見ると、あはれや錦の袋に入れた笛をば腰に挿して居る。熊谷これを見て膝を打ち「あゝ忘れもせぬ今朝の曉に、城の櫓の笛の音の起るを聞き

身にしみんと物のあはれを覺わだが、彼の床しい音色の主は、あゝ、さてはさてはこの君にてありたるか……今日味方の東國勢、何萬騎と云ふ内で、軍の陣中に笛などをば持つやうな心がけの人は、一人たりともありはずまい。さて、雲の上人は優しいものぢや」直實感じて、この笛を首に添へ、大將軍義經の見參に入れると、見る人毎に涙を吸つて涙を流した。

〔註解〕「弓矢取る家には生れぬものぢや」武士の家には生れて來ぬがよいとの意。「涙は情の記念である」涙はいとしい、かはいと思ふ心のしるしである。いとしいと思はず、かはいと思はねば涙は出ない。「鬼を酔で食ふ」鬼でも酔につけて食ふと云ふ程に手荒いこと。「雲の上人」高貴の人をいふ。公卿衆をいふ。「見參」貴い人の目にかけること。即ちお見せすること。又貴い人にお目にかゝることも云ふ。「涙を吸つて涙を流した」鼻に出た涙を吸り目に出た涙を流すこと。

その後平家の捕虜に訊して、これは修理大夫經盛の末子、無官ノ大夫敦盛といつて、生年十七歳になる公達の首であるといふことが分り、また件の笛の名を「青葉」と云つて、祖父忠盛が笛の上手であつたので、鳥羽院より下し賜はつたのを其の子經盛に傳へ、經盛は敦盛に笛の器量があつたので、この笛を傳へたのだと云ふ事が分つた熊谷はこれを聞いて、敦盛の首と笛とを義經に請ひうけて、二つながら父經盛の許に送つたが、熊谷は今度敦盛を討つたのが動機になつて發心し、佛門に入つて其の亡き跡を慰めに吊つたと云ふことである。

〔註解〕「修理大夫經盛」平清盛の弟である。修理大夫は修理職といふ役所の長官である。大夫はダイブと讀むがよい。「無官大夫」こゝ大夫はタイブと讀むがよい。是は官は何もないが位は五位であることを示したものである。大夫は五位を示したものである。「動機」或事をする時に其の決心をさせる原因をいふ。「發心」佛門に心を寄せること。「慰め」ねんごろなこと。丁寧なこと。

第七課 詩 三 篇

此の詩は現代歌人島木赤彦先生の作である。

くぬぎ落葉

櫟枯葉は

芽が出て

落ちる。

ほそりほそりと

一葉づゝ落ちる。

枯葉落ちれば

龍膽の小花。

歩きや足音、

枯葉が落ちる。

風

のぼるのぼる

木の葉を動かして

動くうごく

あとからあとから

秋は涼しい

木の葉の風が

雲を追つてのぼる

焚き火

夕ぐれ日ぐれ

圍爐裏のはたへ

子供のすねが

雨戸のそとを

かくれて

見へぬ、

可愛さうなは

止れば

静か、

ぼそりぼそりと

風がのぼる

山の下から

山の上まで

風がのぼる。

木の葉が動く

山へのぼる。

雲が動いて

波をたて、

白の葉うらが

波を立て、

山の向うへ

すすすんのぼる

さつさと急ぐ。

爐の火が赤い。

子供が揃うた

焚火をのぞく

風ふいて通る、

柴折つてくべろ

揃うた顔が

のぞいたすねが

柴折つてくべろ

枝折つてくべろ。

焚き火に赤い。

二つづゝ揃うた。

枝折つてくべろ。

地理講座 (二)

四、亞細亞洲

A. 世界の屋根

1. パミル高原とはどんな處か。

世界最高の高原で、面積一萬方里（北海と九州と臺灣とを合した位）富士山よりも高い數多の峻峰が屹立してゐる壯觀は、世界に其の類がなからう。アジア大陸の諸山脈は皆此處に集中してゐる。

2. エベレスト山は何處にあるか。

パミル高原を中心として、東方に走ること七百里幅百里の大山脈こそ、世界第一のヒマラヤ山脈である。連峯悉く雪線を越え巉々たる千古の白雪を戴き、又壯大なる氷河が流れてゐる。其の主峯たるエベレストは、高さ二萬九千尺我が富士山の二倍半に近く實に世界第一の高峯である。

B. 珍らしい湖沼

亞細亞洲には各方面から見ても他洲に見られぬ湖沼が多い。西方中央アジアには世界第一の大湖カスピ海を始め、アラル、バルハシの三大鹹が東西に並んでゐる。西部地中海の沿岸、シリアの南部には鹽分の多いこと、湖面の低きこと、で世界第一の死海がある。カスピ海は面積二萬七千四百方里實に我が本州、北海道、九州、四國、臺灣を合した面積よりも尙ほ廣いのである。死海は我琵琶湖位の廣さで、鹽分を含むこと極めて多く百分中二十七乃至二十八であつて魚類を産しないから死海の名を生じたのである。鹽分多きを爲め随つて比重も大きく、水面に

仰臥することが出来るといふ珍しい湖である。

C. 河流と平野

1. 大きな河川があるか。

アジア洲の川は世界の屋根バミル高原から四方に走るヒマラヤ、崑崙、天山、ヒンズークシ等の山脈から四方に流下してゐる。北極海にオビ、エニセイ、レナの三大河注ぎ、黒龍江、揚子江、黄河の諸川は太平洋方面に、メコン、インダス、ガンガ、チゲリス、ユーフラートの諸川は印度洋方面に流れ西斜面には世界屈指の内陸河アム及シルがある。

2. 世界文明の發祥地は何處か。

今から少くとも四千年の昔に遡る支那の文明は黄河の流域に生れ、チゲリス、ユーフラート河の流域のメソポタミア沃野には、五千數百年の文明を尋ねることが出来る。更にインダス河の沃野は世界第一の米産地であると同時に、古代印度の文明の淵源地である。

3. 何故黄河を云ふか。

北支那黄河の上流地方には、所謂黄土層といふがある。厚さ平均千三百尺、面積は我が國の面積より廣く、水酸化鉄を含むことが多いから常に黄色を帯びてゐる。黄河の流れは此の層を混和して濁流混々たるものがあるから此の名を生じたのである。流域には皮膚の色が黄い黄色人種が住み、又支那重要な家畜黄牛が遊んでゐる、又黄河の名も此の黄河によりて黄色に染められた海に名づけたものである。嘉永四年大洪水があつて勃海に注ぐ以前は、黄河は黄海に注いだものである。黄土、黄河、黄海、黄色人種、黄牛偶然とは云へ不思議な位である。支那に「百年河清を待つが如し」といふ言葉も黄河に起つたものであらう。

D. 氣候、産物

1. 世界最寒地は何處か。

シベリヤの東部ヤナ川の中流ベルハヤンスクは世界最寒地である。一月の氣温氷點下七十度に降つた事がある。我が國の最寒地樺太の落合は氷點下四十五度六であるのに比較すると更に非常な寒さである。冬は斧は砕け易き硝子の如くに變じ伐木の用をなさぬ。大地も凍り河も凍り、樹木も立木のまゝ凍るといふ有様である。シベリヤは何故こんなに寒いか、北緯六十八度といふ寒帯内にあるのみならず、南は山脈にとざされ、北方は開けて寒風が自由に入り來り、且つ年中海水の氣候を調和する影響を受けない爲めに最寒地となつたのである。

2. 南部には何故雨が多いか。

アジア洲の大山脈は略東西に連亘してゐて、太平洋と印度洋とから蒸發する多量の水蒸氣は、西又は北に流動して其の山脈の冷氣により凝縮して多量の雨を降らすからである。北半球では五六月頃から暑熱が強くなるため、アジア大陸の内部は低氣壓となり、風は終始アジアの中央部に向つて吹き、南部印度地方では五月から半年の間は雨期となる。ヒマラヤ山脈の南麓アッサム地方のチェラブンジといふ處は、一年の雨量一萬二千五百耗以上で世界最多雨地である。我が國にて降雨量の最も多き薩南地方の三千耗の四倍以上となる。降雨量一耗とは一坪面に一升八合三勺余降つた計算になる即ち一萬耗の降水量といへば一坪面に百八十三石以上降つたといふ事になるのである。

3. 砂漠は何故出来るか。

アジア洲には北支那のゴビ砂漠、印度のタール砂漠、支那新疆省のタクラマカン砂漠、アラビヤ砂漠等を始め中央アジア、イラン地方に數多の砂漠がある。ゴビ砂漠は面積五萬方里、東西五百里南北三百里、吹き荒む恐ろし

き寒風は大陸的砂丘を幾個となく生じ、又所々に雜草茂りて禽獸が野生してゐる。又全く水なき乾土が多い、砂漠はさうして出來たのか、つまり雨が少いからである。温度が高いといふことよりも降雨のないといふことが砂漠の出來る第一の條件である。アラビヤ、イラン地方の海岸には山脈が連なつて、海風を防げるから雨が降らぬためである。中央アジアの砂漠は南は山脈によつて海風を防ぎ、北は水蒸氣少なき寒風を受くるのみで雨量が少いからである。タクラマカン砂漠にも、ゴビ砂漠にも、四圍に高山があることは同様である。

4. 有用な植物にはどんなものがあるか。

椰子の果實は印度半島、馬來群島の住民のためには缺ぐことの出來ぬものである。木幹五丈乃至十丈に及び大さは三尺以内で年々數十個の頭大の果實は殆ど年中間斷なく結ぶ。胚乳を乾燥せるものが所謂コブラで南洋では土人が常食とし或は椰子油、脂肪等を製造する。甘藷、ゴム、規那、籐等も主要な産物である。又印度支那半島を主産地として有用なチーク樹がある。幹の高さは八丈乃至十五丈直径一尺五寸、木質軽く而かも堅牢、木理緻密で磨けば光澤あり、船舶車輪を造るに最も適しアジア第一の良材である。

5. 米の原産地は何處か。

日本は瑞穂の國と誇つてゐるが米の原産地ではない。米の原産地は印度で、高温多濕の地に野生したものを栽培して、今日の常食となりたのである。今尚セイロン島の沼澤地には稻の野生がある。日本米も印度から傳はつたのである。今日世界に於ける米の主産地はアジアで、印度、印度支那、支那、日本等下従つて米を使用するものも其等の國で、歐米人は之をライスカレー、菓子等の副食物にするにすぎない。

E. 住民

世界人口の過半は亞細亞洲にある。アジア洲の總人口は八億九千五百萬、密度は一方杆に二十人、内日本は一方

杆に百十五人で最も稠密な所である。世界平均密度の十一人に比すればアジア洲の密度は遙に多い。

1. 如何なる人種が住んで居るか。

本洲の人種は三大別することが出来る。

(イ) アジヤ人種 アジヤ人種は又黄色人種と云ひ其の數六億一千萬世界人種中最大多數を占めて居る。アジヤ種族に屬するものには、日本民族を始めとして西比利亞土人の各種、土耳其族、蒙古族、滿州族、漢族、西藏族、印度支那族等である。

(ロ) 白色人種 又コーカシヤ人種とも稱し、太古は中央アジアに住んで居たのであるが今では歐羅巴洲が主たる住地である。其の皮膚の色が白いから白色人種といふのであるけれども、アジアに住むものは褐色又は濃褐色を呈し、間にはニグロの如く黒色のものもある。アラビヤ族、印度族、イラン族、コーカシヤ族等は之に屬してゐる。アジアに在住する歐羅巴人種の數は二億五千萬と稱せられてゐる。

(ハ) 海岸島嶼人種 海岸島嶼人種に其の名の如く、アジアの東南諸島及海岸に住し、馬來族、ドラビタ族等に分たる。馬來族は馬來半島、馬來群島に多く住み、フィリッピン人及我臺灣の生蕃も之に屬する。ドラビタ族は印度半島の東南岸地方に住む少數民族である。文化の程度は前二人種よりも遙に低い。

2. 世界の大宗教は皆アジアに起つた。

世界に於ける優等の宗教と稱せらるゝ佛教、基督教、印度教、回教の四大宗教は皆アジア大陸に發源したのである。佛教は印度に起り日本、支那、シヤム等に行はれ其の信者は五億に達してゐる。佛教は印度に起つたのであるが現今印度には佛教が盛でない事は忘れ易い事實である。印度には主として印度教行はれ約二億七百萬の信徒がある。回教は南亞に多く、信者約二億、ムハマットの創立したものである。基督教は約五百萬人、猶太教は五

十萬人の信徒を有する。外に支那には儒教、道教、日本には神道が勢力を保てゐる。何故大宗教がアジヤに起つたか。印度やメソポタミヤの平原は上古開化の域に達してゐたけれども、氣候、産物等の關係上、一時文明が衰退せる爲め、現世を厭離する思想が起つた。又他方に於ては印度は多雨地で濕期には戸外の労働不可能のため、勢樹下の冥想を奨勵し宗教生活を惹き起す様になつたのである。印度の思想の雄大なる又斯の如き原因に依るものであらう。

F. 國家

1. アジヤ洲には如何なる獨立國があるか。

獨立國名	面積	人口	人口密度 (一平方杆)	首府
大日本帝國	四三〇〇〇方里	八三〇〇〇〇〇〇人	一一五人	東京
支那	七二三三〇〇方里	三三〇〇〇〇〇〇〇人	三〇人	北京
暹羅	三一三〇〇方里	九〇二二〇〇〇〇人	一九人	盤谷
波斯	一〇六六〇〇方里	九〇〇〇〇〇〇〇人	六人	テヘラン

日本は立憲君主國支那は名のみ立憲共和國、暹羅は專制君主國で、何れも世界大戰に於ては聯合國側に立つて對獨宣戰に及んだのである。支那と暹羅とは我條約國で公使を交換してゐる。外に波斯は名のみ主憲君主國である。以上四ヶ國の外にネパール國、ブータン國、アフガニスタン國、オマーン國は專制酋長國であるが、何れも英國の保護又は勢力の下にある。

2. 世界大戰後如何なる國家が獨立したか。

獨立國名	面積	人口	人口密度 (一平方杆)	首府
アルメニヤ	三三三〇〇方里	二〇〇〇〇〇〇〇人	三九人	エリヴァン
イラ (メソポタミヤ)	未定	未定	—	バグダット
シリヤ	一〇〇〇〇方里	三〇〇〇〇〇〇〇人	二〇人	ダマスク
パレスチナ	四二〇〇方里	一一五〇〇〇〇〇人	一八人	エルサレム
ヘヂヤス	三〇一〇〇方里	一〇〇〇〇〇〇〇人	二人	メツカ
ケ (トランスヨルダニヤ)	未定	未定	—	—

以上七ヶ國の内アルメニヤ、イラク、シリヤ、パレスチナは舊トルコより分立したものである。其他はイギリス、ロシア、フランス、オランダ、ポルトガル等の歐羅巴諸國及アメリカ合衆國等に分屬し、或は保護干渉を受けてゐる。

アジヤは過去に於て光輝ある文化の歴史を持ちながら、現在餘り振はないのは誠に遺憾に堪へない。日本はアジヤの魁である。文化的勢力範圍を大にすることは産業的のそれに劣つてはならぬ。先づ同文の隣國を富強ならしめ、其の地位を向上せしめねばならぬ。次に資本を投じて産業的開拓を行ひ、其の産物を世界の市場に導くために貢献せねばならぬ。

五、歐羅巴洲

A. 位置面積

1. 日本より見て何方にあるか。

試みに世界地圖を開いて見よ。アジア大陸の西方に連続して西洋婦人の形(イベリヤ半島が頭部)をなすものが歐羅巴洲である。アジア大陸との連続であつて、之を別の大洲と見るのは自然地理の上からは不合理であるから、アジア大陸と歐羅巴大陸とを合してユーラシア大陸とも云ふ。歐羅巴洲は日本の西方にあるから日本よりは日の出が後れる。英國の首府ロンドン市の時間と日本の時間と比較すれば、日本の方が約九時間早い日本の諸君が夕食をしてゐる頃は、英國の子供等は朝食を漸くすまして學校へ行かうとする時刻である。

2. 面積は何程あるか。

面積は六十四萬四千方里で、濠洲を除きては世界最小の大陸である。アジア洲の四分の一、支那共和國より小なること約十萬方里である。歐羅巴は面積は廣い處でない。

B. 地 勢

1. 山脈と平野の主なるものは何々か。

山脈の最も主要なるものはアルプ山系である。弓形をなしてイタリヤ半島の北側を廻り、東して南に傾き海岸を走るものはチナルアルプ山脈、東北より東南に轉じて大弓形をなすはカルパチヤ山脈で、之は更にバルカン山脈を起してゐる。之等の山脈を離れて北にウラル山脈、スカンヂナビヤ山脈の二山脈がある。イタリヤ半島の脊梁をなすものはアペニン山脈である。中央山脈の北には、歐洲大平原あり、カルパチヤ山脈はハンガリー平原を抱き、アルプ、アペニン兩山脈の間にはロンバルヂヤの平原が横はつてゐる。アルプ山脈は歐洲南部の崇大なる山脈で、最高峰モンブランは一萬五千八百七十尺で歐洲第一の高山である。此の山脈には處々に縦谷があつて峽路を通じ、ヒマラヤ山脈の様に南北の交通を妨ぐるものが少ない。

2. 河川は何處から源を發してゐるか。

本洲の河は二大水源地から分流してゐる。一つは東部のバルダイ連丘で、他の一つは西南部のアルプ山脈である

3. ダニユーブ河とはどんな河か。

水源地は獨逸西南部の黒森である。東流して南獨逸、オーストリヤ、ハンガリー、チエコスロバキヤ、ユーゴスラビヤ及バルカン半島諸國は其の流域に當るから、中歐の南部諸國は全然其の影響を蒙り、古來歴史上、商業上、交通上に至大な影響を與へた。全長六百五十二里、歐洲第一の大河である。本支流を合して、汽船を通ずる水路の總延長は千里に達すと云ふ。本河は各國に航行を開放した國際河である。

4. ライン河とはどんな河か。

源をスイスに發し獨逸の西部を流れ、全長約三百二十里、獨逸第一の大河である。歴史上、地文學上、産業上最も趣味ある河流である。舟楫の便甚だ大に運河を以て他の諸河と連絡し、一層其利は大となり、獨逸人が「父ライン」と呼び「國河」と稱する所以である。本河は獨逸の西方に對する重要な軍事上の防禦となつてゐたが、世界大戰後全く沿岸の武裝は解除せられ、且つ國際河となるに至つた。

フランスの或地理學者は「ライン河の歴史は即ち歐羅巴の歴史である。獨逸人は之を父と敬ひ、また子と愛して名づくるに「父ライン」を以てす、其の流れの速なることローヌ川の如く、蜿蜒せることセーヌ川の如く、水色美はしきことソーヌ河の如し。またチメル川の如き史的事實あり、ダニユーブ河の如き壯嚴さあり、ナイル河の如き神秘さへあり、インダス川及ガンヂス川の如く史的物語のあるなどライン河は全く詩人のライン河である」と。

5. 歐羅巴の川の特徴は何か。

(イ)源の二中心即ちスイスとバルダイ丘とを中心として分流するが故に、遠く源流まで廻りて彼我互に運河によ

りて、南北將た東西に大陸を航斷することが出来る。

(ロ)流れ緩かに水量豊富、舟楫の便は遠く上流まで達し灌漑の利も亦多大である。

(ハ)西北大西洋に注ぐ河流は、多く三角江を河口に作り、南方の黒海地中海に注入するものは多く三角州を作る等人文上注意すべき點が多い。

6. 海岸線の發達著し。

海岸線の發達は六大洲中第一位で、アジア洲の二倍半、アジア洲では海岸から七百里を離れた内地があるが、歐洲ではどんなところでも海岸を去る二百里を越えない。歐洲發達の原因の一つは確に此の海岸線の發達してゐる點にある。

7. 地中海はどんな海か。

イベリヤ半島は歐洲の西端にある歐洲最大の半島である。其の南端はアフリカの北端と相せまりジブラルタル海峡をなし、狭き處は約四里位であつて地中海の門戸である。此の口より奥が千二百里世界最大の内海で、歐洲に於ける氣候、産業、交通、文化の中心である。日本人が海事の技能を瀬戸内海で磨くが如く、歐洲人の海事の練習場は實に此の地中海で、其の實演場は大西洋である。

C. 氣候と産業

1. 何故東西によつて氣候の趣きが異なるか。

歐洲大陸の僅かに十七分の一は寒帯で、其他は凡て温帯で氣候は概して温暖である。しかしして一般に氣候は南北即ち緯度の高低によりて氣温の差あるべきに、歐洲のみは東西によりて氣温が異なるとは思議ではないか。即ちスカンデナヴィヤ半島の西海岸の如きは等温線が殆んど經線と平行してゐる。西より東するに従つて愈々寒くな

るが、南より北すればとて必ずしも寒くはならぬ。これは何故か云ふまでもなくメキシコ灣流の影響である。

2. メキシコ灣流の影響を忘れて歐洲の氣候の説明は出来ぬ。

メキシコ灣流とは、熱帯大西洋を流れて來た暖流である。このメキシコ灣流が歐洲の西岸に向つて暖かき海流を送るを以て、同緯度の地よりも遙かに温暖多雨である。イギリスの南海岸を横ぎるのは北緯五十度である。五十度といへば樺太の日露の國境ではないか、よくもそこにロンドンの如き大都會があると思ふかも知れぬけれども等温線を見ると年平均十度以上に當つてゐて、日本の奥羽地方以南の氣候をもつてゐる。スカンデナヴィヤ半島の西北岸は實に北緯七十度以上なるにも關はらず、冬季氷結の憂がない、之れ歐洲が開化に赴ける一大原因である雨量の如きも歐洲全般は年平均五百耗以上千耗位で、山脈地方は概ね千耗以上二千耗位である。しかし之も東に進むに従つて五百耗以下に減却するのである。之れもメキシコ灣流の影響である。こゝに吾々は流が如何に氣候に影響し、而して文化の發達如何にも重大なる關係あることを徹底的に考へて見なければならぬ。

3. 歐洲の重要産物は何か。

歐洲の地は土地よく開墾せられ、狭き土地より多額の産物を得てゐる。耕地から出るものでは麥類は世界で一二を争ひ多く東歐に産し、甜菜は世界の大部分で中歐に多く、葡萄は西南地中海岸地方に盛で之も世界第一である。牛は世界の三分の一、羊は三分の一、豚は二分の一、何れも諸大洲中第一位である。

4. 歐洲産の食糧は歐洲の需要を充し得るか。

東歐地方は農業牧畜共に盛で穀物、畜産物の大供給地である。けれども全歐を養ふには到底足りないもので、主として米洲と亞洲とから供給を仰いでゐる。之れ土地狭く人口稠密なるがためで、世界の大戰争の如きも全く食物の供給地の争奪問題の變形に外ならぬのである。即ちドイツ、オーストリア等が手をメソポタミア印度方面に伸ばして、食糧の供給と人口の輸出を容易ならしめんとして、イギリス、ロシア、フランス等と衝突したのが大動亂のもとである。

5. 西歐は何故商工業が盛であるか。

本洲は諸大洲中最も工業發達せる所で、殊に鉄、石炭の産出多き地方は概ね工業盛で即ち英、獨、佛の三ヶ國は三大工業國とも稱すべきである。歐洲大動亂をして古今未曾有の大慘劇たらしめたものは、要するに鐵と石炭との利用より來る工業の勃興が、軍器を精銳ならしめた事に歸せねばならぬ。前記の様に工業發達せる爲め、商業殊に外國貿易も甚だ盛で殊に英國は世界經濟界の中心で、貿易の盛なことを世界第一である。其の他戰前に於ては獨逸は世界第三であつた。戰時の大打撃を受けたので現今は衰へてゐるけれども早晩恢復するであらう。フランスは英米に次いで世界第三位となり、次はイタリーで世界第四位の貿易額である。ベルギーは最も小國であるが其の貿易は甚だ盛で世界第五位に當り、オランダは我國と伯仲の間である。

D. 交通

1. アルプ山脈には如何なるトンネルがあるか。

歐羅巴の鐵道は面積の割合に發達せること世界第一である。アルプ山脈の如き峻峻なる所にも、今は所々に長大なる隧道が開鑿せられてゐる。其の主なるものはシンプロントンネルで、長さは五里で世界第一、我國最長の笹子隧道の約五倍である。サンゴタルド隧道は約四里、他に四里三里の延長のものが少くない。アルプスの語は歐洲では困難の別名であつたが、人文の力は此の困難を變形して、人間の有利なものと創造したのである。

2. 歐洲の航海業は如何。

世界船舶の半は英國にあり約八割は歐洲にある。如何に海運が旺盛であるかど想像される。但し世界大戰中獨逸より受けたる打撃は實に大きいものであつた。世界の航路は極東、印度、太平洋、濠洲、大西洋、南阿の六大航路があり。それは更に十六幹線に分れてゐるが、英佛の二國の如きは何れの大航路にも手を出して居る。獨逸の將來は海洋にありと云はれてゐるが、大戰の結果殆ど世界の海洋上に其の影を失つた。

理科講座 (二)

大分縣女子師範學校教諭

寺

内

貞

亮

四、物質の状態の變化

融解、固体に熱を加へると常に一定温度で融解し始めるこの温度を其物質の融解點と云ふ。

融解が始まつた後は熱を加へても全部が融解し終るまで温度は昇らないこの際加へた熱は全く固体を液体に變する爲めに消費される。此の場合融解點にある物質一瓦を全く融解して同温度の液にするに要する熱量を其物質の融解熱といふ。

普通熱量の單位は水一瓦を攝氏一度丈け上昇せしむるに要する熱を取つて之れをカロリーと名つけておる。そして水がとけて水になる場合氷は八〇カロリーの熱を要する、物を冷すのに水よりも氷の方が効力があるのは何故か。

寒劑 雪か砕いた氷かと食鹽とを三と一の比に混合すると雪か氷かは融け食鹽は溶けて鹽水になるこの際に要する熱は混合物から供給するから鹽水は冷めて其の温度が零下二十二度になることがある、このやうな混合物を寒劑と云ふ夏アイスクリームを製するとき此の低温が利用される。

蒸發、水かアルコールかの滴を皿の上に置くと其の外部から氣體になつて發散する、かやうに液体が其の表面から靜かに氣體に變化して行くことを蒸發と云ひ蒸發によつて出來た氣體を蒸氣といふ。

今硝子壺に少量の水を入れて其の口を閉ぢると水蒸氣が壺内に溜つて遂に水面上の空間は水蒸氣で満たされて

来る、そして水蒸氣の量が多くなるにつれて蒸發は次第に衰へて遂に止んでしまふ、此の場内は水蒸氣で飽和になつたといひ此の場合の水蒸氣を飽和水蒸氣といふ。

此の飽和水蒸氣の量は温度と共に増加して来る。
沸騰、液体を容器に入れて下から熱するとこの蒸發作用は温度と共に増進し一定の温度に達すると蒸氣は液の下底にも發生して泡となつて出て来る之の現象を沸騰といふ、液が沸騰を始めると温度は一定して變らない加へた熱は液体を蒸氣に變する爲め許りに消費されるこの一定温度を沸騰點といひ一瓦の液体が蒸氣に變する爲めに要する熱量をその液体の蒸發熱といふ。

今二三の物質の沸騰點と蒸發熱を書くと次の様である。

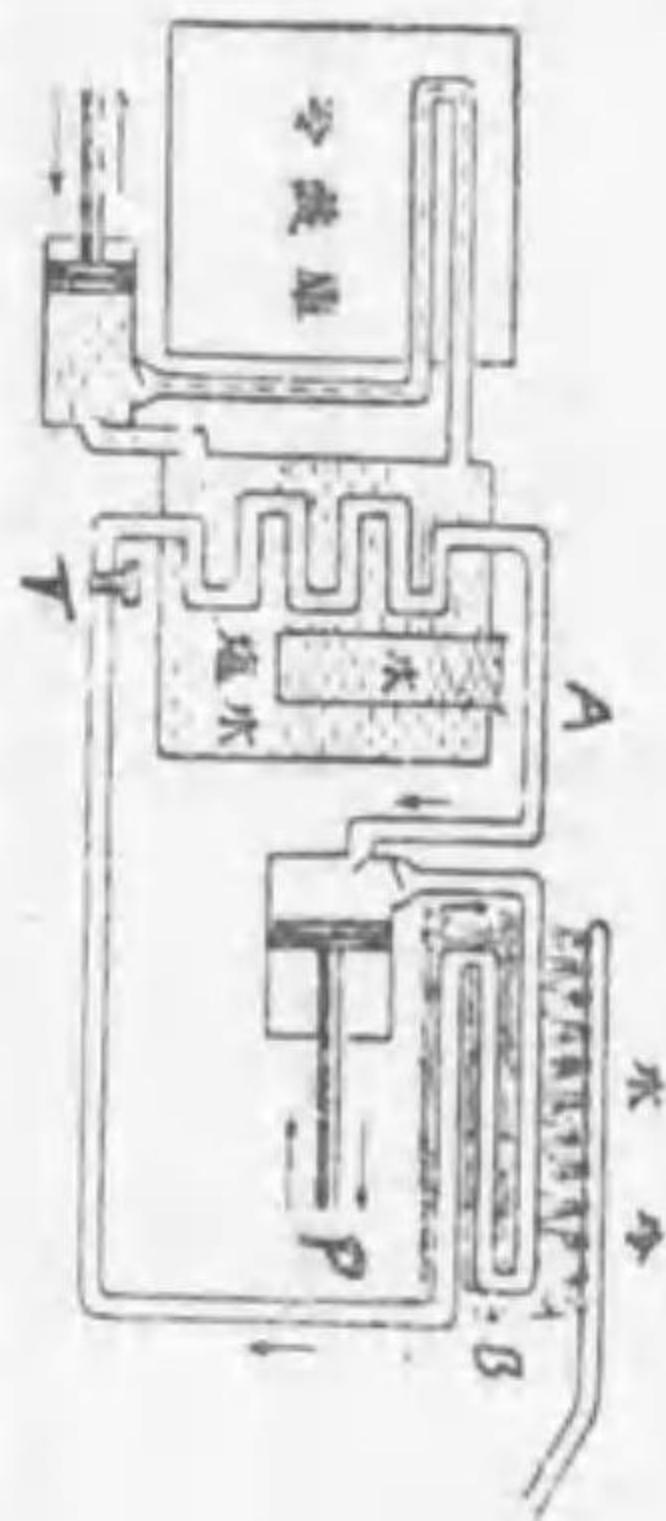
	沸點	蒸發熱
水	100	536(瓦カロリー)
アルコール	78	205

アルコールを手の甲に注いでみると、どんな感じがあるか、何故か。

前には液体が蒸氣になる時には蒸發熱を吸収することを述べた。之れと反對に氣體が液体になる時には其の液体の蒸發熱と等量の熱を放出する、蒸氣暖房は汽罐内に發生した水蒸氣を金屬管に送つて其の内で液化させ其の時に放出する熱で室内を温める装置である。

製氷、液が蒸發する時には蒸發熱を外部から吸収することを利用して氷を人造することが出来る。其の機械の大体の構造を示すと次の様である、

ポンプPでアンモニヤ瓦斯を蛇管Bに強壓して液化させ冷水でアンモニヤ液を冷却し調節弁Aを通して蒸發管Aに送るA管内の蒸氣はポンプに吸収されて氣壓が小であるからアンモニヤ液は盛に蒸發して管外の鹽水は約零下10度に冷却されるそこで淡水を入れた機器を其の中に沈めて置くと氷が出来る。又此の冷へた食鹽水を圖の様に冷蔵庫の管に循環させると庫内を0以下に保つことが出来る。



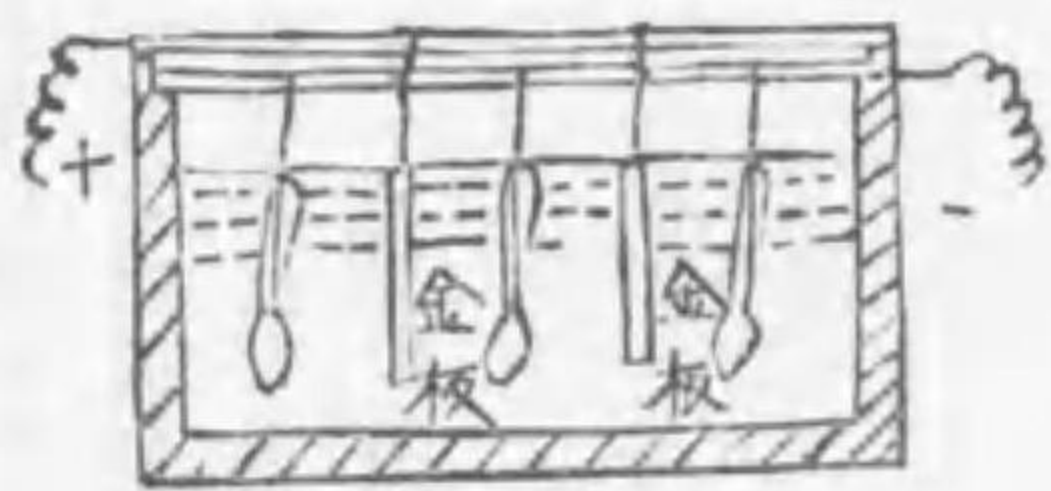
鍍金

鍍金法、鍍金は或る種の金屬の表面の上に他の種類の金屬を薄く被せる操作である。

之れには被せる金屬によつて金メッキ銀メッキ銅メッキ、ニッケルメッキ等色々ある。之れを行ふには次の様な装置と藥品が必要である。

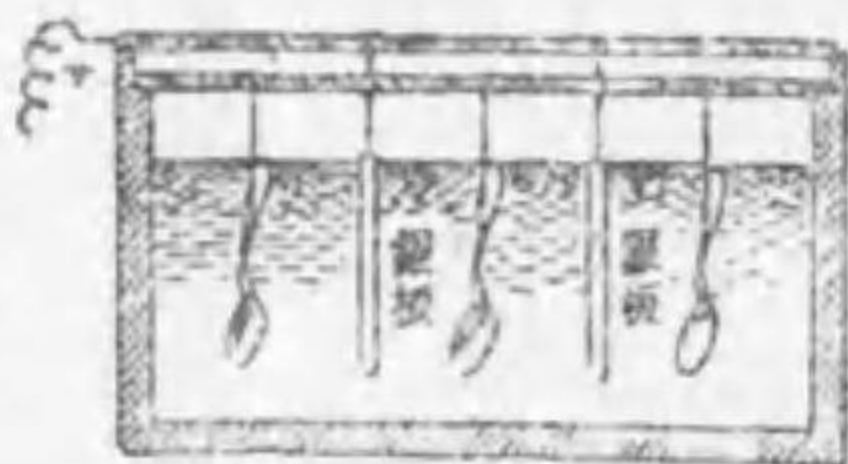
- 一、メッキ液
- 二、メッキすべき金屬板
- 三、メッキさるべき鍍や垢の無い金屬類
- 四、電池
- 五、鍍電槽

金メッキ 金メッキ液は、藥屋にあるが之れは鹽化金の溶液をつくつて之れにシヤン化加里といふ藥品を水にといて前のものに加へると初めは沈澱が出来るが更にシヤン化加里液を加へ行くと此の沈澱がとけて淡赤色の液が出来る之れが金メッキ液である、極めて有毒であるから取扱には充分注意しなければならぬ。先づ之れを圖の如き硝子製のピーカーの中に入れる、此のピーカー中に、清潔にされたメッキさるゝ物と純金の



板を互に觸れない様に入れ金板を電池の陽極にメッキされる物を電池の陰極に結ぶ。

すると電流の作用で金板の金はメッキされる金屬の上に附着して来る、暫くして金屬の面が金で覆はれて来たならば之れを液外に引き出して清水でメッキ液を洗ひ鋼の棒でよく押し研くそして又此の上にメッキをかける。かうして三四回同じ手数を繰り返すときは長くメッキの剥げる様な事がない。又此の金メッキ液は何時までも使へる。



法銀キツメ

銀メッキ 之れは金メッキの時と同じ装置であるのである。

銀メッキ液 硝酸銀の水溶液に青化加里の溶液を加へるときは初めて黒褐色の沈澱が生ずるか更に青化加里溶液を加へると此の沈澱はとけて無色透明の液体となる、之れが銀メッキ液である、圖の様に装置をして電流を通すと鍍金が出来る

金屬に銀が少しついて来て表面が稍黄味を帯びて来たならば之れを液から取り出して清液で洗ひ後重曹でみがく。そして重曹を洗ひ落して又此の上にメッキを掛ける之れも金メッキのときと同様に右の操作を三四回繰り返してやる必要がある。

其の他の鍍金に於ても方法は全く金、銀、メッキの場合と同じであつてたゞメッキする金屬の異ふとメッキ液が其れに応じて異つて来る丈けである。

例へば銅メッキに同メッキ液として硫酸銅の水溶液が用ひられ、ニッケルメッキには、硫酸ニッケルアルミニウムと云ふ藥品の水溶液が用ひられるのである。

熱の移り

熱の移り、水は水準の高い方から低い方に流れる熱は温度の高い方から低い方に移る。

熱は温度の高い部分から低い部分に移るが此の移り方には傳道對流輻射の三種がある。

傳導、炭火の中に銅線の一端を觸れしめて他端を手で持つて居ると暫くして手に暑さを感じる此れは炭火の熱が銅線を傳わつて手に達したのであつて此う云ふ風に水が物体内を通つて行くことを傳導といふ。

物体には極めてよく熱を導くものと然らざるものとがある、一般に金屬は前者に屬して之を一の良導體と云ひ羽毛綿木硝子ゴム等は後者に屬して之を不良導體と云ふ。冬の日金物が特に冷たく感ずるのは何故か。

對流、風呂の水が上の方から温まることは吾々の知る所である、之れは熱せられた水が体積が膨脹する結果輕くなり上の方に浮き上り上の冷たい重い水は底に下り熱を取つては輕くなつて浮くからであるがやうに熱が物質に供つて高温部から低温部の方に移ることを熱の對流といふ對流は氣體に於て最も著しく起るものである。

火事場には常に風が起るのは何故か、又此の風はどの方向に吹くか。ランプのキャや工場や汽車の煙突は何の爲めになるのか、どういふはたらきがあるのか。

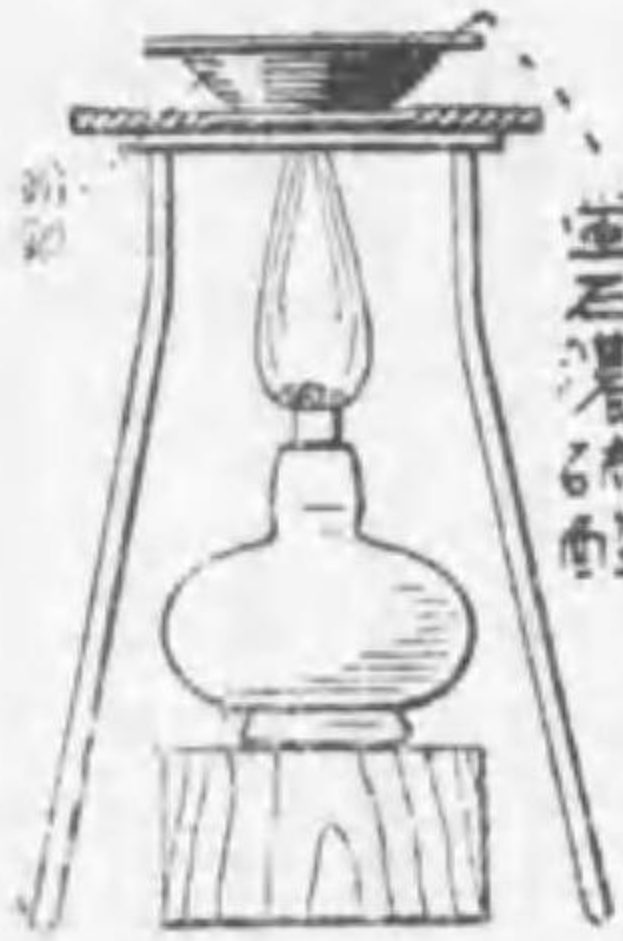
綿や羽毛等が熱の不良導體であるのはその纖維が不良導體でばかりでなく其の内部には多數の細隙があつて其の中に空氣を含み之の空氣の運動が不自由で對流を生じないことにある。

輻射、赤熱した火ばしを手の上に近づけると手は暑さを感じる、此の場合の熱の傳はり方を研べて見るに燒け火ばしと手の間には不良導體の空氣があり空氣は同對流によつて熱を上方に導くから手に達した熱は傳導でも對流でもない、又吾々が太陽に直面すると暑さを感じる。しかし太陽と吾々の間には大きな真空や寒冷や高層空氣があるので之れ等を隔て、太陽の熱は吾々にも達して居る、かやうに熱が中間にある物質に關係なく一つの物体から他の物体に移ることを輻射といふ。

汽鐘の例へいつたとき、焼けてある金物に近づいたとき暑さを感じるのは多く輻射による。夏の日傘で日光を遮つても戸外は室内より著しく暑いのは何故か。

三 弗化水素

法製の素水化弗



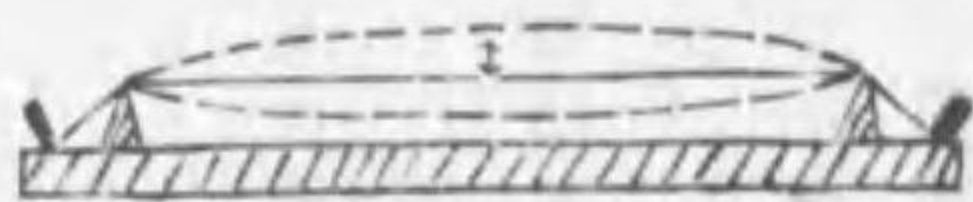
螢石（弗化カルシウム）の粉末を鉛製又は磁器性の皿に入れ之れに濃硫酸を加へて少し温むるときは弗化水素といふ瓦斯を發生する。此皿の上に硝子板を載せて置くと弗化水素の當つた所はガラスが侵蝕される。此のガスは硝子陶磁器等を侵す性質があるから之れを用ひて此れ等に文字や、目盛り等を刻みつけることが出来る。それには豫め硝子板の面に薄くパラピンを塗つて之の上に針で文字か繪を書いて之の面を前の装置の皿の上におき發生する弗

化水素を此處に當てる。

暫らくして硝子板を取り外し充分清水で洗ひ流して弗化水素を取り除いて後パラピンを落すと先に書いた通りの字や繪が硝子に刻み付つかつて居る、此の場合硝子面の字や繪は透明に表はれる弗化水素は水にとけて弗化水素水となる、藥屋で賣つて居るのは此のものを鉛製の瓶の中に收めたものである、此の液を筆で硝子にぬると其の部分は透明に侵される。

音波

物体の振動、今圖の様に針金を木の臺の上に強く張り針金の中央部を弾くと此の針金は點線で表はされる様な往復運動をする。此の様な現象を振動といふ。一秒間に振動する回数を振動数といひ振動の一端から他端までの幅の半分を振巾といふ。また一回往復するに要する時間を週期といふ



音 音には色々ある、鐘、太鼓、琴、笛、ピアノ、オルガン等の樂器から出る音や鳥の聲や虫の聲等どれも吾々の耳に愉快の感じを與へるものである。

又之に反して大砲の音や車輪の音、戸を叩く音、飛行機や自動車オートバイ等に裝置してあるガスインヂンの音は不快な感覺を與へるものである。

音を出す物体を總べて發音体と呼ぶ、發音体は皆振動する、太鼓琴絃等々の發音する時には明かに其の振動がみとめられる。人や獸の聲は咽喉部にある聲帯の振動により鈴虫松虫などの聲は翅の振動による。

音又は二又の鋼鐵棒で出來てゐて音樂上甚だ重要な發音体である。ゴムの附いてをる小槌で其の臂の部分に軽く打つと澄んだ愉快な音が出る此の際細い糸系に吊つたコルク球を音叉の各部に觸れると臂の端は強く振動し下方に行くに従つて振幅が減り曲り目の近くは全く動かないすべて音は物体の振動に基くものである。

音波とその速さ、高空を飛んでをる飛行機は目には見難いが天上から來るプロペ

ラの唸りは耳に聞える。真空鈴のガラス球内に空氣がある場合、球を振ると中の鈴の鳴る音が聞える、今此の球を排氣鐘につないで中の空氣を抜いてゆくと音は次第に弱くなり終に少しも聞けなくなる。

されば真空中には音は無い發音体が空氣中で振動する場合には振動面に接する空氣は代る／＼濃厚（密）になり稀薄（疎）になり、疎密の状態が四方へ傳播し遂に耳の中の空氣に及び鼓膜を振動させて音を感じさせる。このやうに音は發音体とその周圍にある物質即ち媒質に生じさせる疎密の状態の移動に基くものであつてこれを音波と云ふ。

音波の傳播には時間がかゝる、雷光を見て暫くして其の雷鳴を聞き遠方で發砲する時まづその煙を見次に其の



音を聞く、これによつて音波の速さを測る事が出来る。音波の速度は温度零度の空気中では一秒間につき三三三米で温度が一度昇る毎に毎秒〇、六米づゝ増す、空氣の平均温度を約十五度と見做すときは音の速度は毎秒三四〇米となる。之れは普通に音の速度として使はれてゐる數である、固体や液体では音波の速度は遙かに大である。電光をみてから五、五秒で雷鳴を聞いた。雷までの距離は幾らか但し空氣の温度は二三度とする。

音波の反射 静かな水面に起つた波が岸に當れば反射して逆行する。音波も又反射する。大きい絶壁の前に立ちまた深い井戸に臨んで聲を出すと暫くして再び其の聲を聞く、これを反響といふ。

これは口から發した音波が絶壁や水面に當つて反射し再び耳に還つて來るからである談話の際に室が狭いと反響は直ちに反つて來て原音と合して之れを助け談話はよく出来るが大講堂では反響が餘り後れて來て講演者の言葉が明瞭に聞けない事がある。

此の反響を消す爲めに天井に一面に純テープを張つたり四圍にカーテンを張る事などがある。

遠くの絶壁に向つて發聲したのに四秒の後反響を聞く其處から絶壁までの距離は何米あるか但し音の速さを三四〇米とする。

樂器

種類 樂器には澤山の種類がある、之れを發音体によつて分けてみると次の様になる。

弦の振動を利用した物、琴三味線マンドリン、バイオリン等で此等は糸の大きさや張る強さ糸の長さ等を變化させて種々異つた音を出させるものである。

板の振動を利用した物、太鼓之れは獸皮や金屬性の板を胴に張つて之れを打つて音を出す。胴の太さ長さ皮の張力等によつて種々異つた音を出す。

七八

舌の振動を利用した物 ハーモニカ、クラリネット、オルガン、銀笛等がある。舌は竹か金屬で薄い巾の割に長さの大きい板で其の一端が固定されて居て振動するものである。

氣柱の振動を利用した物、笛尺八ラッパの類で狭い所から強く空氣を吹き込むと胴の中にある空氣が振動して音を出すのである。そして振動する空氣の柱の長さを長くすると低い音が出、短かくすると高い音が出る。又吹き方を強くすると一段高い音が出る。笛尺八等には孔があつて指で孔を開閉して吹口から各孔までの長さを異はせて高低任意の音を出す様につくられてゐる。

蓄音機 蓄音機は音を記録して置いて隨時にその音を出させる装置である。それには音を記録して置く音譜盤(レコード)と之れから音を出させる機械の二つがある。

作製のドーコレ



圖は平圓盤蓄音機で喇叭の底になつて居る側面の薄膜(イ)に針口がある。軟かな脂を薄く塗つた亞鉛製の圓盤を臺に載せこれに針端(ハ)を觸れ時計仕掛けで圓盤を廻し喇叭の底が次第に圓盤の中心の方へ移動する様になると針端は脂を掻き分けて盤面に渦線を書き、この際に喇叭に向つて聲を出す。その音の高低に應じて又は強弱に應じて薄膜は複雑に振動し其の度に針端は圓盤の平徑の方向に振動するから渦線は波状になる。この操作を吹き込みと云ふ。この波状渦線を電氣の作用でエポナイト、板上に印刷して平圓板につくつたものが普通のレコードである。蓄音機の機械は中に時計の様な仕掛けが

あつてせんまいによつて澤山の齒車が廻る。

そしてレコードを載せる金屬圓板を等速度に廻す様になつてゐる。又速度調節機と云ふ挺子の様なものがあつてそれによつて圓板の速さを適當に變へ得られる様につくられて居る。

蓄音機をかけるときにはせんまいを巻いて音譜板を蓄音機の廻轉板の上に載せ板を廻轉せしめ針端をレコードの溝線に入れる。そうすると針は波状溝線を辿つてゆき薄膜は之れに相等する振動をして喇叭口からは初めに吹き込んだ音が出る、ラッパは音を成るべく其の方向に逆る爲めである。近頃は喇叭口を箱の内に納めた蓄音機が賞用される様になつた。

吹込み原板からレコードを取るには次の操作をする、波状溝線の出来た原板を硫酸銅溶液を用ひた銅メッキ法によつて薄く銅メッキをして其の上に板を丈夫にする様に鉛をつけ之れを原板から引き離す。そうすると引き離された銅の面には原板と凹凸を異にする波状溝線が出来来る、之れをエポナイト質の圓板を温めて軟かくしておいたものゝ上に押しつけると原板と同じ波状溝線がエポナイト板の上に出來之れを冷すとかたまつてレコードとなる、従つて一板の原型銅板が出来れば同じレコードは澤山出来るものである。

光

光 吾々は光によつて視覚を起して物体の形や位置を知り又之れによつて物体の色とその濃淡とを認識する吾等が外界についてもつて居る知識は多くは光によつて得たものである。

光の直進 雲間を洩れる日光や闇を破る探照燈の光の進路を見ると光は光源から出て直線状に進むことが明らかである之れを吾々は光線といふ。そして光を出す物体のことを發光体といふ。發光体から出た光は甚だ大きな速さ一秒間に三億米即ち約七六〇〇〇里である。

それでも光が太陽から地球に達するには八分一八秒を要し北極星からは四年を要する、以て宇宙の洪大なことが知れるであらう。

光は發光体から出て同じ物質内は直線状に進むから若し其の進路に之れをさへぎる物をおくと光は其の部分を止められ其の後方には全く光の無い個所が出来来る、之れを其の物体の影といふ。

影 影と物体とは相似形をなしてゐる之れは光が直進する證據である、光源の大きさが小さくて物体と影を生ずる直立との距離が小さければ影は、つきりと出るが光源が大きくて物体と影の距離が大きいときは次の圖の様になる、即ちカへの部分は光が全く到達しない部分で之れを本影といひハへの部分は光が一部分達する所で之れを半影といふ。



日蝕、月蝕、太陽は地球や月より遙かに大であるから次の圖の様な影が出来来る。



日食 地球の表面で月の本影に入つた所では皆既日蝕を見、半影に入つた所では太陽は一部分月にさへぎられるから部分蝕を見る

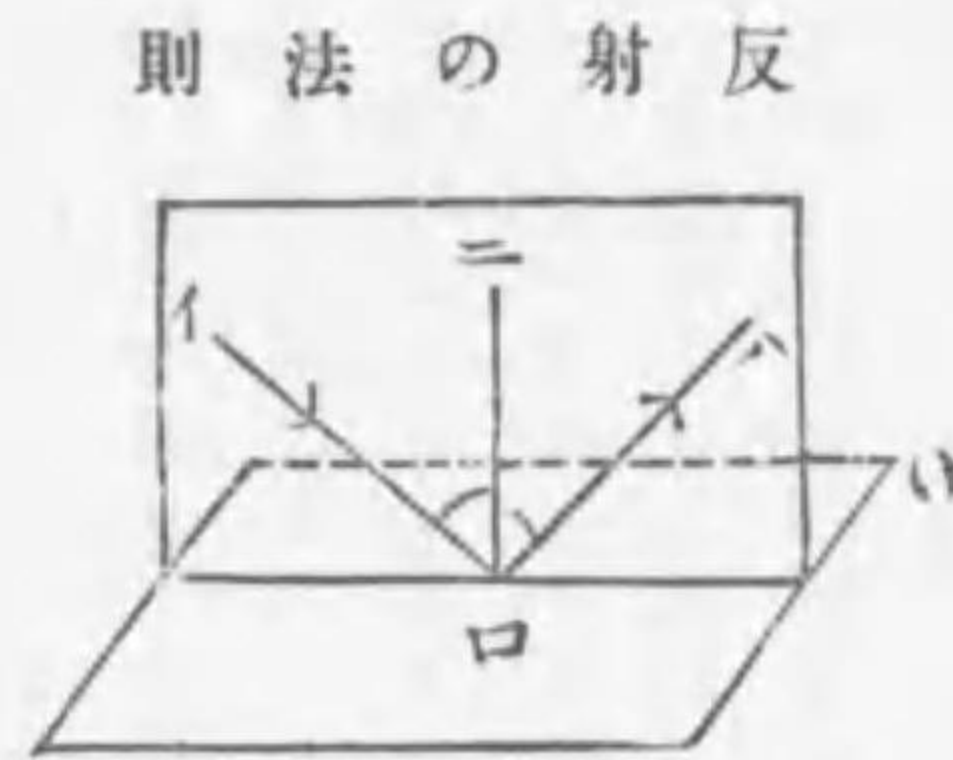
月蝕 地球の本影中にも月が入り込むときは吾々は月蝕を見る

而して月が全く地球の本影中に入つた場合には皆既月蝕し月が一部分本影中に一部分半影中にあるときは部分蝕を見る。

直徑一時半位のセルロイド製ボール（ピンボンのボールでよい）を持つて電燈に向つて立ち目と電燈を連ねた直線上にボールを動かして蝕が起るかどうかを試して見よ電燈と目との距離及び目とボールとの距離を交互に變へて試みよ。

光の反射

窓に設けた細孔を通して太陽の光線を暗室内に導いて之れを平面鏡に投射すると光は鏡の面で急に方向を變へる此の事を光の反射といふ。而して入つて來る光に關して鏡の向きを變へて見ると其の度に反射光線の向きも變る。



反射の法則

圖に於ていろは平面鏡の面イロは入つて來た光の方向ロハは反射した光の方向、ニロは光が鏡の面に達した其の點で鏡の面に垂直な直線、それで之等の線には夫々次の様な名稱がある。

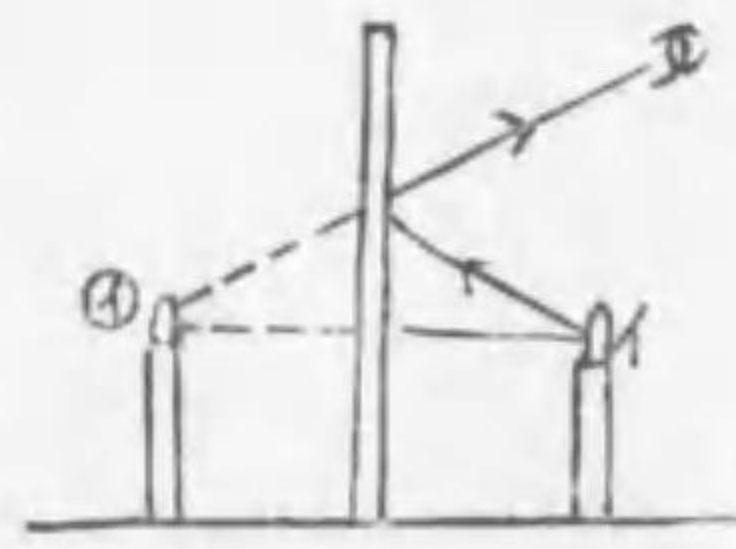
イロは投射光線——又は入射光線

ニロは法線 角イロニは入射角

ロハ 反射光線 角ニロハは反射角

反射の法則 投射光線、反射光線は投射點で反射面（鏡の面の事）に引いた法線と同じ平面内にあり、投射角と反射角とは相等しく且つ法線の兩側にある。

鏡で物を見る場合物体から出た光が吾々の眼に入るまでの光の通る道を書いて見ると次の様になる。



圖の様に燭火の焰から出た光は鏡に當つて反射して眼に入る、吾々は物を見る場合には光が眼に入るときに持つて居る方向の逆の方向にみるからイから出た光も ④ から出たかの様に見える、イ以外の他の點から出た光も同じ理由によつて鏡の裏から出た様に見える、そして燭火の像の大きさは實物の大きさに等しく像の鏡面からの距離も亦實物の鏡面からの距離に等しい之れは反射法則に従つて圖を書いて見ればすぐ解かる。

反射鏡 鏡には平面鏡と球面鏡がある、球面鏡は又凸面鏡と凹面鏡の二種に分かれる、平面鏡で物体を見ると鏡を境として其の物体が丁度鏡の裏に鏡から實物までの距離だけ後方に向きが左右に同じ大

きさに見える。

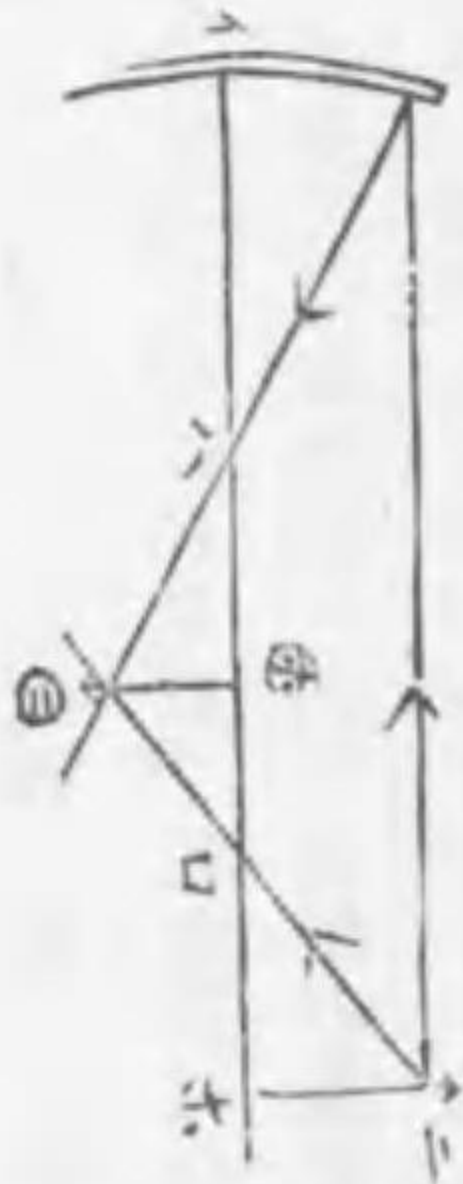
次に 凹面鏡が光を反射する有様を書いて見る、今此處に凹面鏡を中心で面に直角な平面で切り口を圖に示す。イは凹面鏡の鏡の中心ロは凹面の中心

イロを通る直線を鏡の軸といふ、今軸を平行光線に向けると其等の光線が鏡の面で反射され反射の後全部イロの中點ハに集中する。



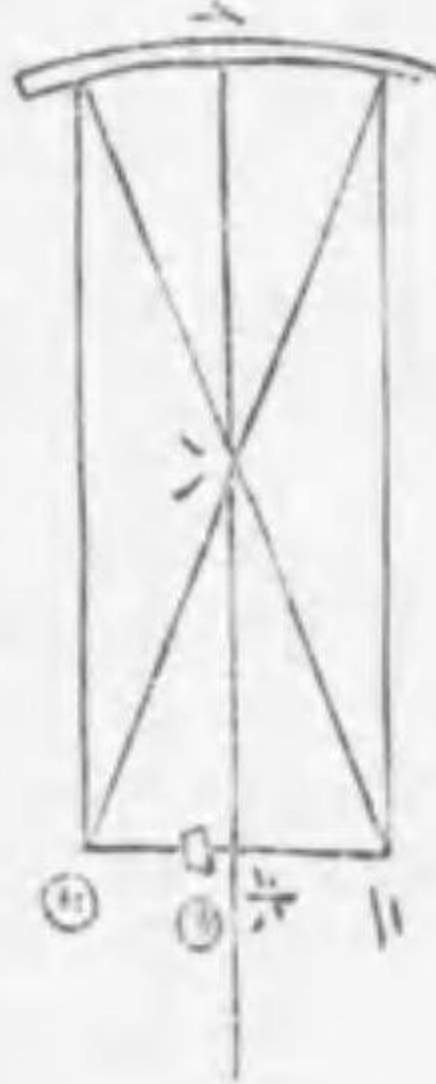
此の點を凹面鏡の焦點といふ。そして鏡の中心から焦點までの距離を焦點距離といふ。光源を焦點に置くと其れから出た光の内鏡の面に當つた光は反射の後全部軸に平行に進む。投光器は此の性質を利用したものである、光源を中心位置に置くに反射の後全部中心に集る、此等の性質を使へば凹面鏡の軸上の物体を置くと鏡に依つて作られる像を圖に書いて求むる事が出来る、今夫れを繩規とコンパスで書いて見ると次の様になる。

1. 物体が鏡の中心より外にあるとき



ニ*は發光体
(=)(*)は像

2. 物体が鏡の中心にあるとき



3. 物体が焦點内に
あるとき



圖に於て(1)(2)の場合には實物から出た光が鏡に當つて反射して其の結果又光が實物の形に集り其れから來る光を吾々が見るのでかやうな光の集りを實像といひ(3)の場合には反射光線は發散して實像は出來ないが此の光線を吾々が眼に受ると眼は何時も光りが入るとききの光の方向の道の方向に物を見るから丁度此れ等の光は鏡の裏から出た様に見える、其の時の像は虚像である、平面鏡の場合は常に虚像を見るのである。
凹面鏡で虚像を見るときは其の像は實物と同じ向きで實物より大きい、實物を鏡に近づける時と鏡から遠ざけるとときは虚像の大きさはどうかはるか。



凸面鏡の場合、鏡の軸に平行に進んだ光が鏡の面に當つて反射される時は皆同じ軸の上で鏡の後の一點から出たかの様な方向を取る此の點は此の球の中心と鏡の中心の中間にあつて虚焦點と名づけられてをる。
ニ鏡面の中心 ニ球の中心 ニ焦點 ニ、ニ 焦點距離

凸面鏡によつて作られる像の書き方



凸面鏡の前方に物体を置きそれから出た光が球面に當つて反射される結果此の場合には實物よりも小さい同じ向きの虚像が出来る。物の像が小さくうつるから凸面鏡は鏡の中に澤山物を寫す必要のある所に用ひられてゐる自動車オートバイ等の反射鏡は夫れである。

物質が輻射熱を吸収する量は白い物が最も少く黒いものが最も多い、凸レンズを使つて太陽の光線を集め此處に墨で染めた紙と白紙とを別々に持つて來て試すに墨のついてゐる方は直に燃え出すが白紙の方は燃え難い、之は黒がよく熱を吸収するから紙の温度が上つて遂に燃え出したので白紙は輻射熱を反射するから紙の温度は上らず従つて火がつかない。

黒い物は輻射熱を吸つて温度が上つて來ると又よく輻射によつて熱を放散するものである。
夏着物や洋傘に白いものが多く用ひられるのは何故か。

輻射熱が物体に到達すると反射吸収透過の作用を呈す布の白地は黒地に比べて反射力は遙かに大であるが又透過する方も黒より大きい。

黒は吸収する點に於て白より遙かに大きい透過は少ない。然し黒はよく吸収しよく輻射する。
然らば夏季、白の洋傘をさし白地の着物を着ることは、物理的にどんな價値があるか、黒地の洋傘黒地の着物は全然不可か。

實業講座(二)

大分縣師範學校教諭 小倉 榮藏

品種改良(一)

第一節 總論

品種改良は今迄栽培し來つた品種よりも更に優良な品種を選出する事であつて品質佳良收量多く或は倒伏し難き或は病害に對する抵抗力の強い品種或は色澤形状の嶄新なもの等を得る爲に行ふのである。

然し品種改良と言つても決して新奇の事では無く古くから精農家が深い注意と綿密な觀察によつて行ひ來つたものである、我が國內に於てさへ稻の品種が千を以て數へる程多いのも其の一端を證明するものである。

品種改良を二つに大別する事が出来る。即ち

- 一、在來種の改良
- 二、新品種の育成

とである。前者は在來其の地方で栽培してゐた品種の中から最良系統のものを選出する方法で後者は人工交配により或は突然變異を利用して新しい良品種を作る事である、之等の目的を達する爲に純系淘汰法、人工交配法等幾多の方法がある。

品種改良によつて得る効果は今更茲に述べるまでもない事であるが假に稻の一穗に一粒宛多く着く稻を得たとして若し之を全國に栽培するものとせばそれに依つて得る增收高は優に三十万石を越すと言ふ。斯く僅少な改良

でも及ばず影響は實に大なるものである。吾々は日夜精細な注意を拂つて幾分なりとも品種改良の事に力めるなら其のもたらす影響や實に大なるものがあらう。

今代表的な稲について其の改良者を見るに神力は明治十年に兵庫縣の丸尾重次郎氏が程吉より選出し、雄町は明治二三年頃岡山縣に於て岸本基藏氏が選出、白玉は嘉永二年福岡縣の彌作と云ふ人が日向の生目八幡に參詣の途中抜穂によつて選出され穀良郡は山口縣の人が選出した等である。

第二節 人工交配法

人工交配法は人工媒助法とも言ひ風媒又は虫媒等自然媒助に對して言ふ事である。雜種には風昆虫等の如き自然物の交配によつて生ずる自然雜種と人爲的に交配を行つて生ずる人工雜種とがある。

人工交配は或る處要の型質を豫想してそれに對する適當の親を交配せしめるのである。

例へば甲は品質收量は優つてゐるが纖弱であるとする、之を改良するに乙なる品質收量は劣つてゐるが強健であるとする云ふ長所を持つた種類を求めて之を甲に交配し以て品質收量優れ且つ強健なる甲たらしめんとするのである。

人工交配を行ふには開花に先だつて雄蕊を除去し、あとはバラフィン紙等で包み置き、其の花のよく熟した頃處要の花粉を柱頭に付けまたバラフィン紙等にて包んで雜交を防ぐのである。

而して相對型質を有する兩親の中何れを父とし何れを母とせしめても其の雜種に於ては普通變化は無いのであるがメンデルの法則によれば第一代目の雜種は優性の性質を表はすものであるから優性の性質のものを父とし劣性の性質のものを母とすれば其の交配が行はれたか否かの判定は第一代目の雜種に於て直ちに知る事が出来るが若し劣性の性質のものを父とし優性の性質のものを母としたら完全に交配の行はれた場合にも亦は自花授精の

行はれた時でも共に第一代目の雜種には優性の性質即ち母の性質を表現するから第二代目にならねば其の交配せし結果の有無を知る事が出来ないのである。

尙南瓜、茄等の如く一花に多數の種子を得るものは極く丁寧に人工交配もなし得るが、米麥等の様に一花に一粒の種子を得るものに於ては甚だ手数を要するものである。

人工交配は品種改良のみでなく降雨期節等に昆虫の飛來少き場合之を行ひ以て結實を確實ならしめる爲に行ふ事もある。

第三節 純系淘汰法

純系とは他の品種の系統を少しも混有してゐない純粹の種を指すのである。

作物に於て現在地方々々で栽培せられてゐる在來種も其の元は純粹であつたものでも幾年間も栽培しつゝある間には自然雜種其の他の原因によつて性質の異つたものが混する様になる。然し同じ一つの在來種であるから其の外観は略類似し大体は一定してゐるが之を精査すれば多少異つた型質のものが混じてゐるのである。斯く同一品種中にある多くの系統中から良系統を選出し不良系統のものを除去する事を純系淘汰と云ふのである。

純系淘汰をするには初年目に於て同一品種に屬する數多の種子を採つて一粒播きなし、其の中處要型質の最もよく發達せるものを選び第二年目に於ては其の遺傳力のあるか否かを檢し遺傳力あるものを純系として第三年目に在來種と純系種との生産力比較試験を行ふのが普通である。

從來は人爲的に淘汰を續行すれば漸次改良されて處要の型質を求め得るものと考へられてゐた。例へば米に於て粒の大きいものを求めんとせば多くの粒の中最も粒の大なるものを選び之を播種し翌年も亦其の中最大なるものを選び斯くすること數代乃至數十代に及べば遂に粒の甚だ大なるものを得ると考へられてゐた、然し純系統に

よれば一度純系に分離されてからはそれ以上淘汰は不可能であると言はれてゐる。例へば金と銅との合金からは精錬の結果金を分離する事が出来るが一旦分離されてからは如何に製錬しても金以上の金は分離されないと同様である。

第四節 良型撰擇法

此の方法は又優型撰擇法とも稱し甘藷馬鈴薯等の如き營養機關によつて繁殖を行ふものに就いて實生によらずに改良法を施さんとする場合に行ふ方法である。而して其の方法に於ては純系淘汰と同様であるが純系種を分離するものでないから特に此の名稱を附してゐる。果樹等に於て芽條撰擇を行ふのも此の種の撰擇法である。

尙突然變異を利用して新品種を育成せんとするには變異せるものを自花授精によつて種子を收め之を播種すれば直ちに新品種を得るのである。芽條變異即ち枝變りに於ては其の枝を接穂挿穂或は壓條法によつて無性繁殖を行へばよい。

此の方法は人爲的に或る豫想を以て行ふ事は出来ない、只偶然に變異を生じたる場合育成するにすぎないのである。

第五節 集團淘汰法

集團淘汰法は純系淘汰法の様子に遺傳性を檢する事なく、只型質良好と思はれる株又は穂を採取つて之を種子とするのである。此の方法は我國の農家が最も普通に實行してゐる方法で此の方法によつても或る程度迄は不良系統のものを除去する事が出来るから、漸次品種の改良をなし得るのである。然し純系淘汰に比べると不確實で多くの手數と年數とを要するのである。

稻に於ける拔穂の方法も此の集團淘汰法である。

第六節 遺傳と人生

遺傳は凡そ生きとし活けるものを支配してゐる、吾々は作物改良に遺傳學を應用する事は前に述べた如くであるが尙吾々は人類の遺傳に就いても知る必要がある。吾々人類は家畜や作物の改良には多大の苦心を拂つてゐるが自分達の大切な子孫をよりよくより丈夫により賢明に發展せしめ様とする努力に對して案外無關心である事は寧ろ不思議な事である。

國家社會の健全なる發達も其の基礎は國民の健康と質に求めねばならぬ、而して之等は單に體育營養其の他教育衛生等後天的作用にのみ求めては得られぬ。從來は「氏より育ち」と言つてゐたが遺傳學の發達は「氏も育ちも」でなければならなくなつた、茄子は如何に環境を變化しても永遠に茄子の範圍を脱することは出来ない。「系統」それは實に争はれぬ事實である。吾々の血は過去に於て祖先につながり將來に於て子孫につながり永遠に亘つて不斷の性質を持つてゐる。祖先を尊重すると同様に子孫をも尊重せねばならぬ。「永遠不斷の生命の傳統」これより以外に生物學的に見た人類の目的は無いのである。文化とか文明と言ふものは生物學者から見れば第二義的なものである。より良きより丈夫な子孫が繁殖する事に於て來るべき社會がより幸福になるのであるから吾々の結婚問題も單なる一個人のみの問題ではなく、同胞人類全体に亘つての重大事である事を忘れてはならぬ。

近來歐米に叫ばれてゐる人種改良も亦遺傳の原理によつて淘汰を行はんとするに外ならない。即ち人類が固有してゐる性質は如何なる不良な性質でも特殊の淘汰を受けない間は其子々孫々にまで永久に傳播して之を除去する事は出来ないのである。従つて此の不良性質がある間は人類永代の福利を増進せしめる事は出来ない。是に於て人類の不良性質を根本的に改良して個人生存上又は社會上有利な状態にあらしめるには單に教育や法律衛生等の力のみによらず繁殖學遺傳學上の力によつて人類の各種性質の遺傳する方法及法則を明にし以て人類の不良性質

を根本的に改良せんとするのである。かゝる目的を以て考究する學問を優生學（ユージェニクス）と呼んでゐる。吾々は自己一身に對する愛そのものに於ても極めて無反省である、まして家族愛同胞愛乃至は人類愛に對しては甚だしく無自覺である。世界人類が愛と平和を享樂するには世界人類の凡ての各個人が其の全力を盡して先づ自己及び自己の同胞そのものを健全に導かねばならない、日本人は日本人として健全な向上發達を期すべきである、吾等一個人そのものが世界人類平和の構成要素である事を忘れてはならぬ。

附

生物の進化（博）

（田原正人氏、最新博物通論参照）

人間の子が何代経つても矢張り人間であり猫の子が何代経つても矢張り猫であると言ふ事實からしても昔の人は生物の種類は萬世不變のもので現在地球上に生存してゐる生物の種類は開闢以來定つてゐたものと思つたのである。例へば人間は開闢以來人間であり猫は開闢以來猫であつたと思つてゐたのである。

然し生物學が進歩するに伴つて説明の出来ない事が多く生じて來た、例へば所々に發掘される化石を見るに現在生存してゐる動物に似てゐる事實尙其の間小異のある事或は場所によつて多少の變化のある事又卵から成體にまで發育して行く種々の階段即ち發生の諸階段を諸種の動物で比較して見ると非常に似てゐるものがある、若し夫れ等の生物が昔存在した同じ祖先から分れて生じたものとするると容易に説明が出来るが若し昔から別々に地球上に生成したものとすると意味が分らなくなつて來る。

又發生の途中に於て成體には全く不必要なものを或期間だけ現はす事がある。例へば人間は發生の途中に於て一時鰓孔の痕跡が立派にあらはれる。之は昔人間の先祖と見るべき動物が鰓を有して居つて其の痕跡が今日に於

ても尙發生の途中に現はれて來るものとすれば一通りの説明はつくが初めから人間は人間として地球上に生存したものとすれば發生の途中に於て鰓孔の痕跡のあらはれるのは全く説明のつかないものになる。

尙ほ此の他にも殆ど擧げ盡す事の出来ない程多くの證據があつて今日では生物は決して萬世不變のものではなく、現今の生物とは異つた生物が昔此の地球上に生存し其の生物が次第に變化して現今の様な生物が出來たものと一般に確く信せられる様になつた、此の事實を名づけて「生物の進化」と云ふのである。

此の生物の進化と云ふ事は決して疑ふ事の出来ない事實ではあるが如何なる段階を経て又如何なる事が原因となつて此の生物の進化と言ふ事が行はれて來たかと言ふ事は分らないのである。然し生物は場所に適應した状態に變化する事は事實である、故に同じ種類でも異つた境遇の下に生育せしむれば兩者は漸々異つた型質を現はして來るのである。若し其の環境に適應し得ないものは滅亡するより他ないのである、之を「自然淘汰」或は「適者生存」と云ふ。

現今の生物は長年月の間絶へず行はれた此の自然淘汰の結果誠によく外圍の状況に適合する様になつてゐる。言ひ換ふれば生活をするのに都合のよいやうな種々の優秀の性質を持つてゐる。尤も生物は種々な所に生活してゐるのであるから一方の土地に適してゐる生物でも他方の土地には適して居らぬ事もある。周圍の状況の異なるに従ひ各々それに適する生物が棲息してゐる、熱帯地方には熱帯に適する生物があり寒帯地方には寒帯に適する生物があり又濕氣の多い所乾燥した所それ〴〵適した生物が棲息してゐる。又偶然に變異を起すものもある、斯くして進化の原因は議論百出の状態であるが、兎も角も生物が進化を續けた事は事實であつて人類の如きも比較的近代此の地球上に現はれ次第に進化して現今の如き状態に達したものである、今日に於ては地球は恰も人類の爲の地球であつて其の禽獸草木は總て人類の支配の下にある様な觀を呈して居るけれ共決して昔から此の様な状態

にあつたのではなく最初は人類も他の獸類と同等の位置に立つて居たのであるが自然淘汰の結果次第に優越の位置を占め遂に今日の域に至つたものである。

農業氣象學 (一)

第一節 氣象と農業との關係

動植物が氣象の支配を離れては生育する事の出来ない事は今更言ふまでもない。日光は勿論温度や湿度の高低氣壓の關係等切放せない状態に置かれてある。然し天界の氣象は人力を以て如何ともする事の出来ないものであるが吾々は氣象學を知る事によつて自然を如何に利用し又有害なる作用を如何にして防禦するかと言ふ事が出来る。

天界の事象といへども決して偶然に突發するものではない。必ず其の因する所がなければならぬ。吾々は其の原因の發生によつて第二次第三次的に起つて来る氣象の變化を知り豫め之に備へる事が出来るのである。

例へば一地方に低氣壓が現はるれば其處に向つて風が起る事を知り又は甲地に雨があれば其の風の方向と速さによつて乙地に何時頃雨のあるかを知り或は氣温の低下によつて凍害の虞ある時等も之に對する防禦法を講ずる事が出来るのである。

米の豊凶が日照時の多少に關係し温濕の順不順によつて養蠶の豊凶が左右せられる等氣象と農業との關係は實に切實なるものである。

現在に於ては天候を人力で以て左右することは出来ないが人智の進歩は際限なきものであるから電波等の作用によつて上層の空氣を攪拌し以て雨雲を呼び或は雨雲を拂ひ除ける等天候を自由に變化せしめ得る日の来る事も

決して座上の空談のみではあるまい。

第二節 温 熱

第一項 氣 温

空氣の温度を氣温と言ふ。某地の温度とは畢竟其の地方の空氣の温度を言ふのである。而して空氣の温度の本源は太陽熱である、然し空氣は直接に太陽熱を吸收する事は至つて少く地面が先づ太陽熱を吸收して温り而して後空氣は地面から熱を受けるのである。随つて空氣は地面を遠ざかるにつれて温度が低くなつて行くのである。氣温は時により又は所によつて變化するものである、時によつて起る氣温の變化は主に地面が太陽から受ける熱量と放射によつて失ふ熱量との差によつて定るのである、一日中に於て最も氣温の高いのは普通午後二時前後で最も低い時は日出前である。

所によつて起る氣温の變化は第一緯度の高低による即ち太陽の直射と斜射の程度によつて異なるものである。然らば同緯度の地に於ける氣温は同一なるべき筈であるが實際に於ては甚だ不規則の状態である。其の原因は

一、水陸の別

陸地は水に比し比熱が小であるから陸地は少しの照射によつて高温となり又冷却するのも早い。水は反對の現象を呈す。

二、海流の關係

海流には暖流と寒流とがある。暖流は附近の氣温を高め寒流は氣温を低くす。

三、土地の高低

低い土地は高い土地に比べて高温である平均二百米を上る毎に攝氏一度宛を低下する割合である。

四、傾斜の方向

南面の土地は北面の土地に比べて気温高し。
海陸入り亂れ山谷あり平野あり地勢にあらゆる變化あるが故に同緯度に於ける気温も随つて不規則たるを免れ
ないのである。

第二項 地 温

地表面は晝間陽熱を受けて夏日に於ては足も灼き盡す位温度が高まるが夜になれば又熱を放射して冷却する、
地表面の温度は斯く常に變化するのであるが土壤は熱の不良導体であるから地下に進むにつれて其の變化少く、
三四尺の地下に於ては既に晝夜による變化を認め難くなる。尙進んで三十尺にも及べば四時を通じて温度の變化
は認められなくなる、此の地層を不易層と言ふ、不易層以下に進めば百尺毎に温度約一度宛上昇するのである、
之既に地心熱の影響である。

地表面の温度も場所により或は其の状態によつて異なる。其の主な原因は

一、土壤の色

土壤の色は黒き程熱を吸収し随つて土温を高めるのである。

二、土壤中の水分

水は土壤に比し比熱大なるが故に温る事少く且つ水蒸氣となつて蒸發する際熱を奪ふから水分のある土壤
は水分の少い土壤よりも温り難い。

三、土地の傾斜の方位

南面傾斜は北面傾斜に比し陽熱を受ける事大にして地温高し。

四、被覆物の有無

土壤面に被覆物の有無によつて土温に差を生ず。

第三項 温熱と植物との關係

凡そ植物には其の生育に適當な温度があつて高低其の度に過ぐれば共に生育が悪い、適温は植物の種類によつ
て一様ではないが大抵二十度乃至三十度位で零度以下の低温と五十度以上の高温とに於ては多くの植物は枯死す
る。然し普通に於ては高温によつて植物が枯死する場合よりも低温の爲に枯死する事が多い、凍死は其の例であ
る。

凍害——植物は零度以下數度の寒冷にあへば組織内の水分が凍結して枯死するのである、嫩芽は殊に其の害を
受け易い、俗に霜害と云ふのは之である。然し其の實霜の害ではなく低温の際いつも霜を結ぶから世人之を霜害
と云ふので霜害と云ふのは不適當である。

植物の凍害に堪へる程度は植物の種類によつて異なる丈でなく、同一植物でも其の状態によつて異なる、一般に
莖葉の組織が密にして水分の少いものは凍害に堪へる事が強い。

凍害にかゝり易い植物——桑、茶、胡瓜、南瓜、茄、馬鈴薯等

凍害に堪へる事の強い植物——豌豆、蠶豆、莖菜、大麥、小麥、蒔蘿等

凍害豫防法

凍害は気温が急降する晴夜に於て土地及植物から熱の放散盛にして植物の莖葉が著しく冷却する事によつて現は
れる現象であるから之の豫防法は力めて温熱の放散を防止し気温の低下するを防げばよいのである。今其の二三
の方法を示せば

一、煙 烟 法

綠草、粗穀、青松葉、稿稈等の燃料を圃場の各所に集め置き氣温低下の虞あるとき之に點火し時々水を注いで烟と共に水蒸氣を發せしめて氣温の冷却を防かんとする方法である、此の方法は單に一局部にのみ於て行つても其の効果は少いから多くの者が共同して行ふを要するのである。

二、覆 蓋 法

豫め圃場に適宜の設備をなし置き必要の場合に蓆、簀、布等で植物の上を覆ふ方法である。此の方法は効果は非常に大であるが多くの勞力と費用とを要するから廣い圃場には行ひ難い、主として苗圃に行はれてゐる。

三、包 被 法

此の方法は藁又は蓆等で一株毎に包被する方法で効力は多いが材料と勞力とを多く要するから大面積に於ては到底行ひ得ぬ方法である。

四、灌 水 法

圃場に灌水して水蒸氣をたゞしめ以て氣温低下を防ぐ方法である、若し灌水が豊富なれば掛流しにすれば尙よ

作物栽培上温度の加減——植物は各其生育に適する温度を異にしてゐる。随つて農家は其の土地の地温に適した作物を栽培すべきである、然し自然の温度は往々變調して作物の生育を害する事がある。又其の温度をたゞ自然にのみ従へば栽培作物を制限せられ需要の多い重要な作物でも之を栽培する事が出来ない、随つて或る程度までは人工を以て温度を調節して收穫の増加を圖るのであるが今其の方法を述べれば

一、傾斜地の利用と障壁の設置

南面の傾斜地は一般に高温を要する植物を栽培し得る。又北方に障壁を設け寒風を遮れば相當の高温たらしめる事が出来る。

二、排水を行ふ事

水濕の地は低温なるが故に排水を行へば多少地温を高める事が出来る。

三、灌溉を行ふ事

温水を注いで地温を高め冷水を注いで地温を低下せしむる等灌溉は地温の調節に屢々用ひらる。

四、醸熱の利用

有機物を堆積して醱酵せしめる時は醸熱を發するが故に此の熱を利用して作物を栽培する事あり、温床は其の適例である、尙冷地に馬糞を施すも多少の効力を有するものである。

今作物の發芽に要する温度を示せば次の如し

作物	最低温度	最適温度	最高温度
稻	一〇度	三一度	三八度
大 麥	三	二〇	三〇
小 麥	三	二五	三二
豌豆	一	三〇	三五
大 麻	一	三五	四五
煙 草	一三	二八	三五
南 瓜	一二	三二	四〇

普通選舉の眞精神

東京帝國大學教授 法學博士 上杉慎吉君講演

今回普通選舉の制度が愈々我國に於て實施せられると云ふことに相成りまして、而して貴賤貧富職業階級其他一切の差別なく國民が悉く舉つて此國家の重きを擔任するの光榮と責任を有すると云ふことに相成りましたのは教育の普及文運の進歩が茲に至つたのであつて、實に之を大正聖代の一大盛事とも申すべく、國家の爲め吾々國民の實に慶祝措く能はざる所であると申さなければならぬ、殊に私が同胞國民と共に衷心より此普通選舉制度の實施を慶び祝ひまする所以のものは、之に依つて我が建國の精神我が國体の精華が益々發揚せられるの日に達したと云ふ事であるのであります。

元來我が帝國は億兆心を一にして天壤無窮の皇運を扶翼し奉ると云ふを以て我が萬國無比なる國体の精華を致して居るのである、國民全体の心が一つとなつて、其心が即ち天皇陛下の御心と成ると云ふのが君民一致舉國統一の我が國体の精華である、是が此普通選舉の實施に依つて益々發揮し益々煥發せられると云ふことは七千餘萬國民の手を額にして欣ぶべき一大盛儀であると申さなければならぬ、此建國の精神、國體の精華と申すものは三千年來時に及んで益々發揚せられたのであります、彼の明治維新王政復古と云ふものも矢張り之を發揚する所以に外ならなかつた、御承知の如く封建政治の末期に方つて外夷四方より我國に攻め來つて、我が國家は將に危急存亡の秋に達したのである、然るに武士階級は此國家を擁護防衛するの能力無きことを暴露したのでありまして、何うしても此國難を救ふには國民全体の力を聚結統一して之を極度に發揮しなければならぬ、如何にすれば國民全体の力を聚結し統一して之を極度に發揚することが出来るであらうか、即ち天皇の御懿徳の下に之を統

一するに在るのみ、是が即ち外夷を伐ち攘ふ攘夷の論が尊王の論となり、遂に王政が復古せられた所以であるのである、それでありますから明治維新の大精神と云ふものは國民の統一と云ふことに在る、隨て國民の平等と云ふことに在る、天皇陛下の赤子として貴賤貧富階級職業の區別なく、悉く國家を負擔するの權利と義務とを有すると云ふことが其眼目たる精神であつたのであります、夫故に維新の初め以來悉く其方針に據つて政事を進められ、新に國民皆兵の制度を立て、國家を防衛するは國民悉くが之を負ふところの光榮であり責任であると定められた、又新に義務教育の制度を立て、教育を受けると云ふことは國民平等なりと定められたのであります、五箇條の御誓文を發せられ「廣く會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ、上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ、官武一途庶民ニ至ルマデ各其ノ志ヲ遂ケシメ人心ヲシテ倦マサラシメンコトヲ要ス」斯の如くに明治新政の方針と云ふものが着々として進んで今日に至つたのであります、今日愈々普通選挙の制度に依つて是が完成せられると云ふ、此明治大正の聖代に生れたる吾々國民の最も喜ぶべき事であると申さなければならぬ、明治天皇の御偉業は數多く、之を算へると云ふことは素より出来ませぬけれど、御偉業中の御偉業と稱へ奉るべき事は憲法の發布でありませう、明治二十三年二月十一日憲法を發布せらるゝに方つて、其主旨精神とする所を憲法發布の勅語に於て宣はせられた、宣はせらく帝國の光榮を中外に宣揚し祖宗の遺業を永久に鞏固ならしむ、と云ふことが是が眞の希望である併しながら此事たる極めて重大であつて、朕一人には之を脊負ひきれぬのである、汝等は忠實能く愛國殉公の精神に富んだる祖先の子孫であるならば、朕と其希望を同うするであらう、どうか一つ此重荷を脊負ふのには肩を貸して呉れぬか、汝等は其能力あることを朕は信頼して疑はぬぞと斯様に仰せられた、私は常に憲法發布の御勅語を拜讀して感奮興起せざる者は日本臣民に非ずと説いてゐるのであります、此憲法が又今回の普通選挙に依つて益々愈々成就せられると言ふことは繰返し々々、重ね々々七千萬國民の一大盛儀と申さ

なければならぬ、何を以て此國民的光榮を收受すべきか、言ふべき所もなく芽出たきことであると先づ普通選挙に對して私は申さなくちやならぬのであります、諸君も素より御同感であらうと思ふ、斯の如くに普通選挙と言ふことは我國に於きまして斯かる重大なる意義を有するのであります、其意義の重大なるだけ吾ら國民の之に對する責任と言ふものは、普通選挙の實施に依つて益々重大を加へると云ふことを吾々同胞は深刻に覺悟を致さなければならぬのである、最早國民は二十五歳以上の男子であれば何人と雖も國家の重きを擔任して間違ないと言ふことが普通選挙の精神でありませう、夫れに依つて國民一致協同一つに成つて此國家を擔任しやうと云ふのであるから、之に依つて吾々國民の責任が益々重大を加へたと云ふことは申す迄もなき事である、殊に吾々が考へなければならぬことは普通選挙の法律が成立するに至りまする前には、是はまだ早い——尙早であると言ふ論も頗る有力に行はれたのであります、是が只だ國民の一部に行はれたと云ふのではなくして恐らくは國民の一人に聞いて見ても普通選挙が愈々實施せられると云ふことになれば、是はまだ早くはなかつたであらうか、と云ふ多少の不安を感じて居らぬ人は一人も私は無からうと思ふのである、然らば其不安を押し切つて今日普通選挙を實行すると云ふことに成つたのは、是は實に非常なる國民の一大英斷であると言ふはなければならぬ、吾々は胸中多少の不安を感じつゝ思切つて普通選挙を行ふと云ふ決心をしたのである、然らば此普通選挙が愈々行はると云ふことに成つて、其立派なる効果を擧げると云ふことに就いては吾々國民は至大なる責任を有すると云ふことは是は申す迄もない事でありませう、扱て吾々は普通選挙の精神を徹底し普通選挙の理想を實現すると云ふ茲に重大なる責任を有して居るのである、幸か不幸か今日に生れ合せたところの吾々ち互諸君は、日本に於て始めて普通選挙に依り第一回の選挙を吾々の手に依つて行はねばならぬと云ふ運命を脊負つたのである、是が第一回に於て間違つたならば最早取返しはつかぬのである、第二回第三回に於てどうすることも出来ぬ、吾々が

其任に當つて吾々の子孫に禍を貽さぬと云ふことは、餘程の決心覺悟を持つて居なければ到底其目的を達することとは非常に困難である。申さなければならぬ、是が私が微力を顧みないで東西に奔走し全國に亘つて普通選舉の精神を國民に一人残らず耳の底まで徹底せしめたい「蟻の思ひも天まで届く」と云ふことがある、是が抑も私の志でありまして必ずさう成り得ると信じて微力を致して居る所以であるのであります、斯の如くに考へて吾々國民の責任が極めて重大である、普通選舉と云ふことの其實際の効果を擧げると云ふことは極めて困難であると云ふことに思ひ至りますと云ふと、私は國民と共に非常に憂慮に堪へざるものがあるのであります。

選舉と云ふことは西洋人はもう一世紀以上、百年このかた之を行つて居るのであります、或は日本人も明治二十三年以來今日に至るまで三十有六年之を行つて居るのであります、選舉の實際を知つて居らるゝ方はあくまで承知の事でありませう、我が三十六年間の經驗と云ふものは誰に聞いて見ても選舉と云ふことが立派に我國に於て成功をしたと斷言し得る者は一人も無いのである、選舉は選舉の度毎に腐敗に腐敗を重ねて、もう選舉と云ふものは到底うましく行くものではないと云ふ感じが今日我が一般社會に行はれて居ると云ふやうな有様である、西洋人は百年間之を行つたのであります、彼等の間には選舉と云ふ事は是は先づ失敗である、到底その所期の目的、當初の理想を達すると云ふことは出来ざるものであると斷言して居ると云ふことが今日の状況であると申さなければならぬ、私が専門に研究致して居りますところの憲法の區域に於きまして、最近二十年間に最も目に著く顯著なる現象は何であるかと申しますれば、世界各國到る處其信用を失つたか、其原因は多々あるものであります、仕舞つたと云ふことである、何故に議會が世界各國到る處其信用を失つたか、其原因は多々あるものでありますけれども、其主なるものは選舉と云ふ事がどうして當初の理想の如く、最初人間の考へて居つたやうに立派に純粹に正當に行はるゝことが出来ないかと云ふに在るのであります、今私が茲に選舉の理論——歐米に於ける

選舉の實際を説いて長談議をするに云ふことは略しますけれども、其一端を申せば諸君は既にお分りに成るであらうと思ふ、元來選舉と云ふことが吾々人間社會に行はるゝやうに成つたのは何う云ふ譯であるか、何故選舉と云ふことが良い事として行はるゝのであるか、さうしますれば、言ふ迄もなく、此處に大勢の人が集つて、其大勢の人が皆指を揃へて此人と言つて指すやうな人であれば其人は必ず多數の人望のある人であらう、今日國民はさう云ふ事を希望して居るか、如何なる事に對して不平を持つてゐるか、即ち民心の傾嚮を能く代表の出来る議員として最も適當な人であらうと云ふのが、選舉が良い事として吾々人間社會に一般に行はるゝに至つた原因である、大勢の人が皆此人と云つて指す、夫は立派な人でなければならぬ、是が簡單な選舉の理想であります、ところが此理想を以て選舉と云ふことを實際にやつてみると斯う云ふ結果になる、大分市の人口が何萬人有るか知らぬが、其數萬の人に向つて議員として一番宜いと思ふ人を銘々が指す、斯う致しますると云ふと皆思ひ／＼に自分の議員として最も適當であらうと思ふ人を紙に書いて出すのである、是が投票と云ふもの、ところが銘々が皆此人が一番宜からうと云つて書いて出した投票を集めて、それを開いて見ると云ふと何某は十票、何某は二十票、何某は三十票、さう云ふ投票ばかりであつて、一人で數千票數萬票を得て當選すると云ふ人は之を發見することが出来ないかと云ふのは實際であります、そこで大勢の中から皆さんが此人と云つて指す前に一人起上る人が出来る、諸君は私が一番適當であるから私に向つて投票をしないかと云ひ出す人が生ずるのであります、さうして其人が演説であるとか文書であるとか其他有らゆる手段を講じて我に投票せよと云つて投票を集むるに依つて此人が數千票、數萬票を得て當選して議員と成ることが出来るのである、そこで何う云ふ事に依つて成つたのであるかと云へば、選舉の初めの理想は銘々が自分の考で一番此人は良い人だと思ふ人を投票に書けと斯う云ふことであつたが、選舉の實際に於てはさうでなくして候補者として起つて居る人が一番良い人と思ふ譯でもなく、

其人より尙ほ良い人は幾らでも居ると云ふことは知つて居つても、或は其人は良いのか悪いのか丸で知らなくとも、どうしても其人に投票しなければ選挙と云ふものは實行出来ぬと云ふことが此事の意味であります、夫故に或る學者は斯う云ふ事を言つた、選挙と云ふことは一人に多数の投票が自づから集まると云ふことを理想とした制度である、然るに選挙の實際は投票が一人に集るのでなくして一人が多数の投票を我に集めるのである、と斯の如く皮肉なことを言つて選挙の制度を批評した人があるが、是は其通り實際である、斯の如くにして第一次の初めから選挙と云ふことが極めて之を實行するに困難なるものであると云ふことが分るのである、夫だけではない、其候補者と云ふ者が自分に投票を集めるのであります、集めるには演説をする文書を發表する、夫だけならばまだ宜しいのでありますけれども、投票を自分に集めるが爲に賄賂、買収、脅迫、縁故其外ありと有らゆる、所謂腐敗的手段を講ずるのである、此選挙の腐敗と云ふことは良正なる諸君は我國に於て是が頗る行はれて居ると云ふことを十分御承知でありませう、併しながら此選挙の腐敗と云ふことは只だ我國に於て行はるゝだけではなく世界各國の普通の現象であるのであります、我國の如きは寧ろ腐敗と云ふことは餘程程度の軽い方であるのであります、亞米利加に於ける學者が斯の如き事を言つて居ります「選挙の腐敗と云ふことは是は實に困つたことである、併しながら此腐敗と云ふことが即ち選挙と云ふ事を執行せしむる所以の——其車を運轉するところの油である、腐敗と云ふことが無かつたならば選挙も亦行はるゝことは出来ない、腐敗と云ふことを止めて仕舞へば選挙も亦止めて仕舞ふの外はない」「ノー、エレクトション、ウヰ、サグト、フアクション」腐敗と云ふ事が無ければ選挙も亦無し、と云ふ事を言つたのである、是は實に悲むべき事でありますけれども諸國に於ける選挙の實際は其通りである斯の如くに選挙と云ふことが其本來の理想——當初の目的を貫徹することが困難であるが爲に西洋諸國に於ては百年の経験に依つて今日は選挙と云ふことは先づ人間社會では立派に行はるゝ望みはないも

のと断言して居ると云ふことが實際の有様であるのであります、選挙と云ふことが如何に難かしい事であるかと云ふことは選挙の法律を御覽に成つても分る、色々の事を書いてある、例へば秘密投票の制度——投票には選挙せらるゝ議員の名前だけ書いて自分の名前は書くことならぬと成つて居る、選挙と云ふ國家の公事を國民が行ふのに何故に正々堂々我が名前を名乗ることが出来ぬのであるか、自分の名前を匿さなければ投票が出来ぬと云ふことは、是は實に不思議千萬なる事であると申さなければならぬ、彼のビスマルクが秘密投票の制度は獨逸魂に反すると云ふことを云つたのは有名なる話でありますが、何ぞ獨り獨逸魂のみならんや、佛蘭西魂でも英吉利魂でも何故投票を無記名投票にしなければならぬか、是は人間が法律の上で判つきりと人間自らを侮辱して居るものと申さなければなりません、夫程にしなれば選挙も執行が出来ないと云ふものは、如何に選挙と云ふ事が人間社會に於て綺麗に立派に行はるゝことの困難であるかと云ふことを深く證明するものであると云ふことを御了解になるであらうと思ふのであります、此選挙と云ふことが極めて困難であると云ふことを、今普通選挙が是から行はれやうと云ふ時に、私が殊更にお話をする所以のものは、普通選挙に成りますと云ふと、是までの選挙でさへ之を行ふことが難かしいのに尙ほ其難かしい度を加へると云ふことは歐米諸國に於て既に経験せられた事であるからであります、普通選挙の制度と云ふものは、初め千八百四十八年に佛蘭西が之を行つたのが始まりで、それ以來諸國に於て行はれたのであります、西洋人は普通選挙と云ふものを既に七八十年間経験したのであります、其経験に據りますれば普通選挙の制度は先づ大体に於て失敗であつたと云はなければならぬのであります、之を吾々は今日能く考へなければならぬ、どうして失敗であつたか、其選挙の二三の現象に就て申して見ますならば、何處の國に於ても普通選挙を行つた結果目について著しく現れたところの現象は、議員の性が何處でも悪くなつた、議員の品質が何處でも餘程下つたと云ふことである、議會と云ふものゝ水平線が著しく下

つて仕舞つた、是が普通選挙を行つた結果諸國に現れた最も目につく普通の現象である、夫だけではなく普通選挙が行はれた結果は煽動といふことが勢ひを逞しうするに至つた、人を煽て、我が野心を逞しうする——煽動といふことは是は如何なる時代でも如何なる制度の下に於ても政治上必ず行はるゝのであります、普通選挙の行はるゝ結果此煽動といふことが非常な勢ひで行はるゝやうに成つた、又其結果と致しまして刑事上の争ひの問題といふものが何時でも空漠な、大雑駁な多数の人の煽動として働くところの事柄のみを捉へることに成つた、而して國民の生活に直接に關係あるところの、例へば租税をどうするか物價はどうするか關稅はどうか、さういふやうな問題と云ふものは一向面白くない、民衆を煽動することが出来ぬ、それが爲に捨て、顧みられず空漠なる問題のみが唱へられて、國家の進運を妨害せられて居ることの尠からざることは諸國の経験せられた所であります、又普通選挙を行つた目的の一つは何處の國でも政界の廓清といふことが其動機であつたのであります、普通選挙になれば賄賂とか買収とか夫等の腐敗と云ふものは無くなるであらうと考へた、ところが豈圖らんや諸國に於ては普通選挙が行はるゝに至つて腐敗の手段、買収、賄賂といふが如き事は益々巧妙になつて來た、今までは選挙の時だけさういふ悪い事が行はれたのであります、普通選挙になるといふと年中絶えずさういふ事が行はるゝ、裏面に於いて力強陰險に性が悪くなつて是が行はれて政界は益々腐敗したといふことが諸國の既に経験した事である、各國に於て議會が到る處國民の信用を失墜したと申しましたが、其原因は外にも在ることは申す迄もありませぬけれども、最近に至つて著しく其信用を失墜致しましたのは主たる原因は普通選挙を行つたことに在ると云ふことを、吾々國民は愈々我國に於て普通選挙を行うといふ此場合に方つて深く考へなければならぬ、前車の覆るは後車の戒めとなる、吾々は茲に餘裕決心の臍を固めなければ前車の轍を追ふと云ふことは歴々として之を推すことが出来やうと私は思ふのである、そこで私は我が國民と共に——同胞と共に深く考へて斯

の如き決心を持ちたいと思ふのである、歐羅巴の百年の経験或は七八十年の経験に據りまして、又我國に於ても之を経験したでありませう、選挙といふことは中々立派に純粹に行はるゝことが出来ぬ、普通選挙と云ふことも其本来の理想を達するに云ふことは斯の如くに困難である、然らば其原因は何處に在るのであらうか、選挙と云ふこと——普通選挙と云ふことが、其制度其ものには旨いかなと云ふべき道理は少しも無い、理屈上選挙と云ふこと普通選挙と云ふことが正當に純粹に行はれないと云ふ等は少しも無いのである、是が旨いかなと云ふのは選挙の制度——普通選挙の制度が悪いのではなくして——其罪は制度其ものにあるのではなくして、どうしても旨いかなと云ふ原因は之を行ふところの人の心掛が間違つて居るからである、選挙と云ふことは國家の公共の爲に國民が其正當なる義務を行ふのである、最も高き國家的精神を以て之を行はなければ其目的を達することは出来ぬと云ふことは申すまでもなき事でありませう、然るに諸國に於ては皆私慾の爲に——私事の爲に或は政黨の争ひの結果、人間と云ふものは争闘心の頗る強きものである、それに惑はされて國家を忘れて仕舞つたと云ふことが選挙——普通選挙と云ふものの、どうしても當初の目的を達することが出来ぬと斷念せられる迄に至つた原因である、若しも國民が熱烈な愛國心を有し、高尚なる公共道徳の信念を有するならば、何故選挙と云ふこと——普通選挙と云ふことが立派に行はれぬか、左様な等は決して無いのである、茲に於て私は我七千萬の同胞と共に覺醒致したいと思ふのである、縦令選挙と云ふこと——普通選挙と云ふ事が、西洋諸國に於て國民が私慾の爲に其執行を誤つては到底是は其豫期の目的を達せざるものと斷念したりと雖も、何故吾々日本人も亦斷念しなければならぬのであらうか、由來我が日本人は熱烈旺盛なる愛國心を有し、純粹高尚なる公共道徳の信念を有するを以て萬國無比と誇つて居るところの國民ではありませぬか、然らば縦令是が西洋諸國に於て人間私慾に走るの結果、到底いかなものと百年間経験しても、我が日本國に於ては立派に、國民の熱烈、鞏固なる愛國心に

依つて、純粹、高尚なる公共道徳の信念に依つて、其當初豫期した理想的効果を擧げ得ると云ふレコードを、世界歴史の上に掲げると云ふことは吾々日本人として眞に光榮ある事であると私は考へて宜からうと思ふのである、私が數日前獨逸の或る雜誌を讀んで居りますると云ふと、其雜誌に或る學者が斯う云ふ事を書いて居る「普通選舉と云ふ事は是は先づ失敗であつた西洋人が七八十年間經驗して失敗と決つて居る夫を今頃になつて日本人が行はふと云つて喜んで居るのは嗤ふに堪へたり」と云ふやうな事を雜誌に皮肉に書いてゐる、私は書齋に居つても此雜誌を讀んで手を拍いて笑つたのである、汝の心を以て日本人を推すとは何事であるか、西洋人は愛國心なく公共の道徳の眞に低い、私慾に依つて普通選舉の制度の善美なる効果を擧げ得ざりしと云つて、日本人も亦失敗するであらうと云ふのを逆様に彼こそ嗤ふべしと雜誌を擲ち手を拍いて呵々大笑したことでありました、實に普通選舉そのものに悪いと云ふことは少しも無いのである、日本人が其愛國心を誇るならば必ず其立派なる効果を擧げ得ると云ふ確信をば今日私は七千萬同胞と共に啖りを持つて之を成功して見たいと思ふのは諸君恐くは御同感であらうと私は信するのである、併しながら斯の如くに申しまするけれども、吾々は三十六年立憲政治を行つて決して西洋人に向つて左程に大威張に、汝等は失敗したけれども吾々日本人は成功すると云ふことは大言壯語致すことも稍々困難ではなからうかと思ふ、三十六年と云へば相當永い年月である、其間間違つて居つたのである、茲に於て私は我が國民に向つて是が準備を勤めんと欲する、普通選舉の準備と申せば昔口を揃へて「今度は一千万人も新しい選舉民が出来る、啖りして貰はなければ困る、間違つて貰つては困る、之に向つて普通選舉の精神を吹込まなければならぬ」と斯の如く世人が動もすると云ふのでありますが、私は斯かる議論には斷じて觸れぬのである、寧ろ是より新に選舉權を得て之を行はんとする人は、一遍も經驗の無い人、新しい人である綺麗な人である、どう成るかど云ふことは分りませぬけれども、從來選舉權を有つて居つた所の三百五十萬人と

云ふものは立派に穢れて居ると云ふことを三十六年間證明しきつた人々である、大きな口を開いて新しい選舉民ばかりだ啖りせよ、間違へるな杯云ふ資格は舊選舉人には少しも無い、日本人は悲いかな愛國心が無いと云ふことを三十六年間證明したのである、選舉は立派に行はれると云ふやうな事や其愛國心の熱烈鞏固なることを世界無比と誇ることが出来ませうか、此普通選舉が愈々行はると云ふことは實に更始一新の一大機會であると申さなければならぬ、願くは從來の選舉人諸君も此機會に一つ古い着物を脱いで仕舞つて、新しい選舉人と一緒に成つて新しい着物を着て、吾々も三十六年間間違つた、日本人がどうして普通選舉が立派に出来ぬと云ふのであらうか、億兆心を一にして天壤無窮の皇運を扶翼するは堅剛の精神と國體の精華を誇つて居る新しい一千万人と一緒になつて、或は千五百萬人と一の綺麗な着物を着て立派に普通選舉の効果を擧げやう、斯かる覺悟を今日此際舊選舉人も新選舉人と共にすることが私は最も必要であらうと思ふ、普通選舉の精神を私が説いて歩くと舊選舉人は、乃公には關係はないと云ふ顔をして居る、さうして是から選舉權を得る貧乏な人や労働者、そんな人にお説きなさい——いけませんと私は言ふ、貴方がたが先づ聽いて自覺して汝自体を懺悔して然る後に貴方がたは最後に貧乏な人、無産者、労働者に附くことが出来るのであると、斯の如く申して居りますが、實に政治は維新の一大機會に逢着したのであります、此時に方つて國民舉つて作興奮起せられんことを私は切に希望致すのである、殊に普通選舉と云ふことは、選舉權が三百五十萬人からあるのが一千四百五十萬人に増加する、選舉權が擴張した其人數が殖えると云ふだけの簡單なる問題ではないのである、只だ數が殖えると云ふだけでも私が今申すやうな困難が之に伴ふのであるが、普通選舉の實施と云ふことは、斯様な言葉を私が用ひては適當であるか何うかは知りませぬけれども、是は實に革命的の一大變動を政治上に惹起すところの一大事件であると云ふことを知らなければならぬ、大化の革新、明治の維新、憲法の發布、根本的の革新を行つたところの歴史上の一大事件である、併

しながら私は普通選挙の實施と云ふことは夫れ以上で、我が國建國以來未曾有の大事事件なりと我が國民は覺悟致さなければならぬと思ふのである、歐羅巴諸國に於きまして普通選挙を行ふた結果は先刻來申すが如き諸般の弊害を生じた而已ならず、根本的に社會の秩序を紊亂し階級闘争と云ふが如き國民同胞が鎗を削つて活くる死ぬるの戦ひをする、同胞一致と云ふことを眼目として行はるゝ普通選挙の下に階級闘争が行はるゝと云ふことは實に意外の事と申さなければならぬ、而して其結果國家を自から瓦解に陥れたものがあると云ふことは吾々が目前に見た實例である、斯の如くに考れば普通選挙の實施と云ふことは是は革命的の一大變動を惹起すべき大事事件であると謂はなければならぬ、吾々が此實施を目前に控へて非常の覺悟を致さなければならぬと云ふことは、是は私の嗚々するを俟たざる所であらうと思ふのであります。

扱て私は只今お話がありました通り、回顧致しますれば大正六年の春でありました、普通選挙を我國に於て速に執行せよと云ふことを絶叫主張したのであります、只今申された通り當時に於きましては普通選挙と云へば先づ是は危険思想であると謂はれて居つたのであります、然るに私の如き保守主義者——而も徹底したる保守主義者が普通選挙を速に執行せよと唱へたと云ふことは、私自身の事を申しては如何であります、相當に天下の耳目を聳動したことであつたであらうと思ふのであります、素より微々たる一學究の力が世の中を動かすだけの影響があつたとは思ひませぬけれども、其後時世は伸展致しまして今日愈々普通選挙を行はれるゝと云ふことになつたのであります、私は之に對して何となく自分に幾らかの責任があると云ふやうな感じがすると云ふことは諸君が恐らく御同情下されることであらうと思ふのである、私が昨年以來東西に奔走し殆ど今日まで普通選挙に關する講演を七八十回は致したてでありませう、誰に頼まれたといふこともない、今申された大成會と云ふものを私が創立して私一人でやつて居るやうな會であります、夫程に心配し奔走をしますのは素より一片歌々の心

の國家の前途を憂ふるに在ると云ふことは申す迄もありませぬけれども、自分一個として何となく之に對して責任を感ずると云ふことを述べまして御諒察あらんことを御願ひ致すのであります、此やうな私一個の事をお話するといふことは、是は私は諸君にも一つお考を願ひたいから申上るのであります、私は偶々我國最高の學校に職を奉じて憲法を講釋して居るのであります、夫でありますから普通選挙と云ふやうな事に就て國家の爲に氣が着いた事があれば、早く口を開いて之を言ふことは、我が國家より俸給を頂いて居る國民に對する役目であらうと思ふ、それ故に私は口を開いて言ふたのでありますけれども、お互御銘々は皆其専門の職業を有つて居るのである、で口を開いて言ふ事は私に成つたのであるが、愈々國民の力に依つて普通選挙が行はるゝと云ふことに成れば、國民銘々皆之に對して若干の責任を感ずると云ふことは私と同様でなければならぬと思ふのである、吾々以上に純粹なる熱烈なる愛國心を有せられる諸君は、其重大なる責任を今日此際痛感されるであらうと思ふが故に、圖らず私一個の責任を感ずると云ふお話を致したのである、どうしても此普通選挙の善美なる効果を擧げると云ふことは、國民が銘々自分の事として考へる外はないのであります、私は自分が何も自分の骨を折つて居ることを誇ると云ふことは少しもありません、政府其他政治家が一体何をして居るかと思ふことが不平に堪へぬのであります、法律と云ふものは出來た、併しながら法律と云ふものは言はゞ活字を並べた丈けのものである、之を立派に運用すると云ふことは人の精神に在るのであります、然るに政府並に政黨は普通選挙の法律を拵へて之を公民の前に拋出して是で選挙せよと云ふことは頗る無責任な態度であると思ふ、政府は從來民力の涵養であるとか勤儉獎勵であるとか色々の施設運動をせられたのである、皆素より結構なる事に相違ありませぬけれども、私は普通選挙に對する準備は之に比ぶれば殆ど比較すべからざる程の重大なるものと思ふ、何故に政府は普通選挙の準備の爲に努力施設する所が無いのであらうか、政黨は何をして居るのであらうか

私は滿腔の不平に堪へませぬ、或は政府に於ては近來普通選挙の準備をするなんと言つて居りますが、其準備と言ふのは願くば幸にして政黨自身の爲に準備するに非ざれば結構であると私は思つて居る、寧ろ政黨自身の爲に準備するならば、三十六年間の過を益々大きくするのであつて、折角普通選挙を行ふ所以の目的と言ふものは之を達することは出来ぬのである、私は是等の政府並に政黨が、國民的——精神的準備の爲に毫も努力しないと言ふことを、切に遺憾なり不平なりとする者であります、何うでありますか諸君、聽つて考へて見れば、是等の人にはもう普通選挙の準備をする資格は無いのであると思ふ、普通選挙は吾々國民が新舊ともに素つ裸になつて新しい着物を着て政界を廓清し、眞に國民一致の國家を建設しやうとするのである、從來腐敗の渦中に游いで居つた政治家と言ふ者は、最早吾々と共に普通選挙の準備を語る資格は無いと考へて宜しからうと思ふのである、人の名前を申しては誠に悪い事ではありますが、近來後藤新平と云ふ人が普通選挙の準備の爲に「政治の倫理化」と云ふことを主張して居られる、誠に結構で私も兩手を舉げて子爵の行動に賛成して其力を添へたいと云ふことを申して居るのであります、併しながら國民は何だか是も矢張政治家が自分の野心を達するが爲にさういふ事をするのではないか、といふやうな疑ひを持つて居ると云ふことが事實である、私はさう云ふ疑ひは要らぬ、後藤子爵の心持は潔白であらうと思ふが、若しも疑はしいならば面倒でありませぬか、そんな人に準備を頼むより國民銘々自分の腹で心を決めて、自分の事は自分でする、さう云ふ人には願ひしない、國民自分の精神で以て徹底、周到なる準備をすることを國民自ら覺悟しなければならぬと私は思ふのである、私が大正六年の春普通選挙の制度を實施せよといふことを、そんなに早い頃に絶叫主張して天下の耳目を驚かしたのであります、私は當時大に考へる所があつて之を主張したのであります、大正六年の春と申せば是は丁度歐羅巴大戦争の最も酷なる時でありました、其時この大戦争の結末はどう成るでありませうか誰も豫測は出来なかつたのである、併しな

がら兎に角是は世界を根こそぎ引繰返す大騒動であると云ふことは明であつて、其世界的の大騒動に日本が加はつて仕舞つたのであります、宜かつたか悪かつたか云つて見たところが加はつて仕舞つた、而も日本は此最も重要な一原素として之に加はつて仕舞つたのであります、私は此戦争の結末はどう成つても是は將來日本に取つて國際上世界の舞臺に立つて非常なる難局を持來するものであらうと云ふことを深く考へたのである、果せるかな戦後の我が日本の世界的地位といふものは實に困難を極めてゐる、其實際を私が此處に一々申さずとも諸君が十分御承知のことであらう、私は是は一大困難であると思ふ、或る時餘り國難と私に云ふものであるから、新聞紙上に國難博士など綽名を頂戴した程之を心配しました。

扱て此國難であります、之をどうしたならば乗切ることが出来るであらうか、我が國土は斯のやうに狭少であり物資は斯の如くに貧弱である、何の實力をも持つて居らぬのである、只だ恃むところは人有的のみである、人の精神ある而已である、國民の統一と云ふ事ある而已である、然るに一方我國は近來人心頓に弛んで仕舞ひ、人心は著しく荒んで仕舞つて居る、數年前倫敦タイムズに或る西洋人が一つの論文を寄稿して、日本は日露戦争を時として夫より下り坂に向つて居ると書いて其當時朝野の識者を驚かした事がある、其者の論に曰く「日本人は五十年間實に世界を驚かすところの長足の進歩を成し遂げた、併しながら夫は一時的の感情の激昂に依つて一時的の昂奮状態に依つて是だけの進歩を仕遂げたものと見えて永續さはない——日露戦争を峠として人心は弛み人心は頹れて段々下り坂に向ひつゝある」と云ふことを書いたのである、誠に残念千萬でありますけれども事は甚だ的中して居るのである、諸君は東西古今の歴史を見て、國の滅びる——亡國の跡と云ふものを御承知でありませう、國が滅びるといふ時は誰しも此國といふ車に乗つて居る人は今下り坂に向つて居るといふことは少しも心着かぬのであります、平氣な顔をして歌唄つて居る、其間に車は坂を下つてサツと亡國と成つた時には周章て

、見ても時既に遅いといふのが古今東西亡國の歴史の跡歷々として徴すべきものがあるものであります斯の如くに考へれば慄然として膚に粟を生じなければならぬ、是は國民統一の實をあげるには何よりも思ひ切つて斷行しなければならぬ、非常の時には非常の事を行ふべし、普通選挙を行ふ如きは何かあらん、といふのは私が當時普通選挙といふ事を絶叫主張した最も重大なる動機であつたのであります、夫故に私は當時この普通選挙といふことを政治上の國民總動員と想像致したので、政治上に國民を總動員して此國家は皆我が物であると國民が考へて七千萬人の力を聚結統一し、又此力を二倍して一億四千萬とし、又之を十倍して七億の力とすることも出来るであらう是が私の當時普通選挙を提唱した所以であります、是亦最初申すところの建國の精神、國体の精華、維新の宏議立憲の精神を紹述するものに外ならぬのである、國民が皆舉つて此國家は自分の力で政治をするのだといふ考に成りたい、といふ事が普通選挙の眼目でなければならぬと思ふのである、然るに私は近年青年と共に建國運動といふ事をやつて居りますが、其主旨に曰く、我が日本國はまだ本當の日本國に成つて居らぬのである、我が日本國は億兆一心天壤無窮の皇運を扶翼するといふ國柄である、然るに我が國家の内にて國家を名として私慾を貪つて居る者は澤山居るのであります、國民同胞を説く手段に使つて自分の私慾を逞しうして居る者も澤山に存在して居るのである、之に對して階級闘争といふ事を唱へて居る者も存在して居るのであります、斯の如んばどうして我國を億兆一心の國家といふことが出来るか、我が國家は神武天皇の御創業と共に同胞一つに成るといふ國柄として出来たのである、けれども夫は今日まだ出来上つて居らぬ、今日に至るまでの三千年といふものは是は準備の時代であつたと思はなければならぬ、天皇の建國は今日から始まる、夫は純眞なる青年の手に依つて行はれなければならぬといふことを主旨として青年を集めて建國運動といふことをやつて居りますが、斯の如くならずんば普通選挙の理想は到底之を達することが出来ぬのである、階級闘争といふが如き、同胞一致の國民の間に斯

の如きことがあるべき道理は決してないのであります、矢張人皆自己の私利私慾を先にして國家の公共を忘るゝが故に國民同胞を削つて死生の争ひをしなければならぬ、畜生道にも陥るのであります、人皆國家の理想を知り、人皆我が日本の建國の精神を知るならば、普通選挙の實施といふが如きは立派に其効果を挙げなければならぬといふことは言ふを俟たずして明瞭なることであらうと思ふ、私は最後に諸君に申上ますが、今回九州各地を巡廻を致しまして、今日まで十三四回連日と申しますか一日に數回も講演をして色々の方面から百万普通選挙の實行といふことは極めて困難であるといふこと、餘程の熱心をせぬといふと、折角の普通選挙が旨くいさませぬから、どうか十分其精神を自覺せられたいといふことを國民同胞に相談する積りで出来る限りの方法を講じて微力の及ぶだけ説いて参つたのであります、私は此大分まで参つて此二三日前から一人また考へて見たのである、これは或は口を酸つぱくして私の知つて居るだけを盡して二時間も三時間も、福岡の如きは四時間近く私は講演をしましたが、さういふことをしなくても宜かつたのではないかといふことに氣が着いて來たのであります、各地に於て色々の人にお目に懸かりました此處に一人の百姓が居つて、夫が誠意な、淳朴な、正直な、眞面目な人である、國の政治と言ふことは何んな事であるか、選挙と言ふことは何んな事であるか、マア殆ど分らぬ人である、併しながら其人柄と其心掛が誠實で正直で眞面目であれば—其人に向つては私は普通選挙の困難と言ふことも、普通選挙の準備をせよと言ふことも少しも之を説く必要を發見しなかつた、さう言ふ人に出逢つて私は成る程斯様な人が居れば、私は何も説いて歩く必要がないと言ふことを、さう言ふ人に向つて私は涙の出ることを感じたのである、で私が斯んな事を説いて歩くことも要らぬ、事柄は至つて簡單である、彼の小學校の第一年の修身の教科書で知つた正直、眞面目をそれさへ分れば普通選挙の準備と言ふことは實際不必要であつて、是で完全に普通選挙の準備が出来る、私は普通選挙と言ふことをモウ取立て、言はないで、今度東京に歸つたら行り

方を變へて、旗に正直、眞面目と書いて夫を持つて日本を歩かうかと決したのである、是は私が昨年以來全國に七八十回の講演をして考へ着いた結果を、今日九州最後の講演を致すに就て諸君に申上るのであります、或は分りきつた事を言ふではないか、正直、眞面目と言ふことは誰でも知つて居ると言はるゝでありませうが、是れだけでありませう、もうそんな難かしい事は要らぬ、此意味を深くお考へになることを希望致します、さう考へますると私がさう考へなければならぬことに成つた事情を少し許りお話をすると言ふことも御参考に成らうと思ふから、附加へて少し許りお話を致しませう、私は御承知の如く大學の教授に成りましてからモウ滿二十三年に成ります、既にお爺さんに成りました、此間私が何をやつて居つたかと言へば只だ國家と言ふことを研究したのである、さうして國家と言ふ事を學生に向つて告げ國民に向つて説くと言ふことが只だ私の二十有餘年間の仕事であつたのであります、是は私の不肖とはいひながら随分力めたものであります、然るにお恥しい事でありませうが、私は當時五十に成つて始めて是に氣が着いた、國家といふことは口に言ひ文章に書いた私が言ふよりも、御銘々の當り前のお方がたが十分に知つて此通りやつて居る事であるといふことが此頃やつと分つたのであります、譬へてみれば飯といふものを分析して是に炭素がどの位這入つて居つて窒素がどの位這入つて居り、澱粉質がどの位脂肪がどの位這入つて居つて、夫を食ふとどれだけの滋養分に成る、そんな事は吾々は知らぬけれども、ちやんと御飯を食ふていゝ加減の滋養分を攝つて居るのである、さういふ事を分析説明する學者がちやんと立派に滋養分を攝つて居るといふことは願ひて行かなかつたと同じく、私が是れ程研究し是れ程説くといふことも皆さんが當り前の事として、國家といふ道を踏んで是を信仰的に行つて居らるゝといふことが、やつと此頃分つて自ら恥ぢる念を起したのであります、それで國家といふことをモウ口で言つても何んにもならぬ、知らずに當り前に國民的信仰として其通り行ふのでなければならぬ、我れ過てり、モウ口を開いて國家を説くことを止めて、之を

實行の上に當り前の事として行はなければならぬ、と斯様に考へた一つの問題で、お話をして諸君のお考を願はうと思ひませうが、斯ういふ事を私は此頃考へて居るのであります、さうするといふと、今年の四月中旬でありましたが新聞紙上で私は斯ういふ話を讀んだのであります、お讀みに成つた方もあるでありませう、是は愛知縣の或る處に貧乏な百姓の一人のお女將さんがあつた、此お女將さんが其亭主が斯ういふ講演會に行つて歸つて來て話をするに、「是は大變酷いことだ、今日講演を聴いた所が、日本國の外國に對する借金は二十何億といふ大きな金ださうだ、夫が返せぬ内は物價も下らぬ日本國は非常な難儀をせねばならぬといふことだ、どうしたものか、と斯う女房に話した、血相を變へて話した、さうすると女房が問ふて曰く、「日本には一人はどの位居るのですか」「それは七千萬人居る」「そんなら何十億と云つた所で夫れ程國が難儀すると云つたならば皆で返せぬと云ふことはありませうまい、一体一人前幾らに成りますか」と聞いた、さうすると其亭主といふ人も別にさういふことを知つてゐるやうな人でありませぬが「聞く所に據るとそれは一人前八圓に當るさうだ」さうすると女房がいふには「八圓なら何んでもないでありませぬか、皆が出し合せて今日でも返せるでありませぬか」と言ひました、ところが此のお女將さん又考へて、自分の宅や小さな赤ん坊が一人居る、さうして一家四人暮しで一人が八圓づゝといふと合計三十二圓である、成る程是非常な大金ぢや、尋常一様で返すと云ふことは難かしいことであるといふので、此人が夫から麻糸繫ぎといふ内職をして一錢二錢の金を竹の筒に貯へて之に充てゝ、とらゝ三十二圓といふ金を拵へて夫を政府に出して公債を返す私の分でありませうといふて出したといふ事を私は新聞で讀んだのであります、私は之を讀んで私が二十年間國家を説いて居て人の心を動かすことは出来なかつた、私は努めざるに非ずと雖も今日思想界の状態は斯の如く成つて普通選舉の實施せられるに當つて是れ程の努力をしなければならぬ有様に成つてゐるが、私が二十幾年間に爲した事を一朝に此お女將さんは爲し遂げた、斯の如き人が直に國難を救ふ人であらう、昔佛蘭西が英吉利と戦つて將に滅びんとするやシャンス、ダルクといふ一人の女が現れ出で、白い馬に乗つて全國を驅廻つて愛國心を鼓舞して佛蘭西を救ふたのであるが、此貧乏なお女將さんは我國のシャンス、ダルクであらうか、願くは私は其白馬に乗つて全國を驅廻つて此人の心を國民の胸から

胸に傳へて國を救ふ一助に爲したい、誠に私は五十に至つて眞に國家は此人のお蔭で救はれることが分つたので私は早速愛知縣に出掛けて此お女將さんを訪ねたのであります、何の爲に訪ねたかと云へば、只だ私は此人にお禮を言ひに行つたのであります、お蔭で日本最高の學府に職を奉じ國家を講ずること二十有幾年にして出来なかつた事を、貴女が私に出来るやうにして下さつたお禮を申し上げますと言ひに行つたのであります、私は其行く時には大變心配をしましたが、さういふお女將さんであれば出酒張りの虚榮心の強い嫌な氣持の人が居つたらどうしやうか、と斯う思つて行きますと、是は誠に當り前のお女將さんでありました——二十六七の綺麗なさつぱりしたお女將さんで、私が行つて斯ういふ譯で來ましたと言つても譯が分らぬ——當り前の事でありませぬか、國が難儀して立行かぬといふ時に銘々が夫を貯蓄して出すのは是は當り前でありませぬか（拍手）大學教授といふものが夫が始めて氣が着いたのであります、お女將さんは私の前にお辭儀して譯が分らぬと言ひました、そんな人ですから只だお茶を持つて來てモヂ／＼してゐる、どうもさうらしい、之には私は感心したのであります、私は愛國心といふもの——吾々の國家心といふものは斯ういふものであると思ふ、此處に或は家族四人居つて今日は三人分しか米が無い、其時には吾々は三人分の米をお粥に炊いて四人が食べる、之は當り前の事である、誰も不平をいふ者もなければ夫が苦痛なりとする者もない、國家に於て吾々が此心を國民として我が同胞に對して持つて居りますならば一切の問題は解決する、普通選舉に一票を投ずるも此心でなければならぬといつたが其通りで此お女將さんは當り前の事として自己の食を減じて三人分の粥を四人で食べる積りで政府に三十二圓を出した、之は實に偉大なる事と申さなければならぬ、私が此普通選舉論をするに當つて此話を致しますのは今日が初めてあります、從來數十回普通選舉に關する講演をしましたが、私は正直で眞面目な一人の百姓と、かゝる立派なる婦人の精神が我が日本國に普通選舉の精神を理論的に實現する根本の力であるといふことを深く感じた、といふ事を諸君に申上つて私は九州に於ける最後の普通選舉の精神に關する講演を終ることに致さうと思ふのであります（拍手）

國防の本義

一、國家の分立は永遠なり

同族の發展増殖を希ひ他を排斥するは生物の本能なり生物の下級なる植物に於てすら其現象顯著なり松の繁殖せる森林中には他の植物は生長せず竹林中には他の植物繁生せざるが如し殊に動物に至りては其現象更に著しく蟻にても黒蟻と赤蟻の争闘大小異なる黒蟻の争闘は吾人の日常目撃する所なり其他牛馬猫犬の類其相和し相親しむは其間利害關係のなきときのみにして一度利害關係の生ずるや同輩すらも斥けて自己の慾望を全うせんとす。居を異にして類を異にするものゝ、人間に於ては其争闘殊に甚し生を同うし境遇を同うするものが同族の爲めに謀り他を排斥し又生と境遇とを同うするものとも其間に利害關係の生ずる時は自己擁護の爲め同族をも排斥するは生物の本能にして根本的に此の本能を除するは如何なる力を以てするも不可能にして生物の靈長たる人間も亦此規を脱するを得ず。

人間程勝手なる生物はなし他の生物に對しては自己本意の理由をつけて勝手なる振舞をなして居る唯他の生物に比して知徳進歩せるを以て同族間に於ては其本能の發揮比較的露骨ならざるのみ然れ共其本能は過去の歴史が有力に物語つ居る日日新聞が明かに證明して居る。

有史以來幾千年今日に於ても世界に強弱國の分立する現象は此の間の消息を示して居る。

平和は人間の愛好する處なり故に悲惨なる戰の行はるゝ際に於ては自己の幸福を満足せしめん爲恒久平和はさげばれ之に對し常に何等かの計畫が樹てられたのである、今回の西歐戰爭は有史以來最も悲惨にして其影響する範圍擴大なりし爲めに其結果將來の戰爭防止に對する聲も亦甚だ大なるものがあり之が生だ産物も亦世界的であつ

た即國境撤廢の思想、國際聯盟等國際を充した種々の會合である。然れども之等の思想も現實も人間の本能を根本的に改良する事の不可能なりしは戦場の血向なまぐさき今日に證據立てられたのである戦後の世界は戦前に比して少しも美はしいものとなつては居ない、實に淺ましい醜い事件が到る處で顯れて居る即ち己に講和會議開會中「ヒウム」事件が起り伊太利の委員は憤然旗を捲いて巴里を引揚げたる如き。

國際聯盟が成ても露獨は加入せず主唱者たる米國は之に加入せざるのみならず廣大なる領土に伴ふ無限の富力を有し尙其上に大戰後は歐洲諸國に對し債權國たるの威力を揮ひ得るの地位に立て居ながら軍備縮少の美名の下に華府會議に召集して他國の軍備を制限せしめ自ら世界最大の海軍を擁して平然としてゐる、露國は勞農政府の下に軍國的中央集權政治を行ふて國內を統一して更に進んで「ボルシエヒズム」による世界革命を企て、居る、英露は獨逸に勝ちて後己を有する廣大なる海外領土を更に擴張し且新嘉坡には新に一大軍港を建設して何事かをなさんとして居る。

又戰爭中獨逸が共同の敵を時に相提携して居た佛英は獨の賠償問題で兩國の意見が枵格し爲めに其協調が破れんとしたことも屢々ある又「エシレシヤ」問題に關しても同様である如斯事實は世界大戰の如き試練も數千年間自然に養はれて來た民族間の反感を少しも緩和し得なかつた事を有力に物語つて居る即數千年來過去の人類によつて出來た處の民族精神は如何なる力でも抜き去ることが出來ぬ事を證明してゐる。

國境撤廢どころか反對に各民族の反感は一層根強きものになつたのである恒久平和宣傳の如き民族協調の精神の如き一時は流行しても一度民間に利害關係が生ずると忽ち姿を消してしまふ。

茲に於て民族の反感は根底深く永續するもので民族のなさざる國家は永遠に存立するものなりと云ひ得る。

二、國防の必要

國家は世に處するの外交的手段によりて國際間の親和を圖り且時々發生する紛議を未發に防ぎ若くは之を平和に解決する事に勉めて居る然れども各國皆其國利民福を増進する爲に特種の利害關係を有し其利害關係は必ずしも他の邦國それと一致するにあらず却て全く相反する事あり。

此不一致若くは相反する利害の調理解決に際し各自の主張を持して下らざるに於ては遂に外交手段を以て平和に處理する能はざるに至るべし茲に於て國家としては自己の意志を貫徹し其存在を保證するの備なかるべからず即國防なかるべからず。

三、國防の要素

國防の要素としては左の事項を具備せざるべからず

1. 精銳なる軍隊
2. 優秀なる戦斗器材
3. 優秀なる交通網
4. 優秀なる軍事工業（平時に於ける精密工業等）
5. 健全なる國民精神と軍事常識を有する多數の國民
6. 卓越せる富力
7. 食糧の自給自足

以上の要素は國民全般の努力に依り培養せらるる故に國防は國民全部の任ずべきもの即國民國防なり

四、國防と軍隊との關係

國防完備せば外敵の壓迫を未然に防止する事を得然れども人道正義を無視し若しくは野心を抱藏する所の那國は常に現存する故之を威壓し其非違を杜絶し又其攻撃に當り國家を保護するの必要を生ず之が直行動の衝に當るものは軍隊を措きて他に求むべからず。

又國內には國家が正當に設置せる政府を是認するを肯せざるものあり如何なる法律にも服従を望まざるものあり又自己若しくは自己の祖先の勤勞せずして他人若くば他人の祖先の辛苦して得たる資産を剝奪して衣食せんとするものあり尙自己の野心の爲に百般の手段を盡して社會の組織秩序を顛覆せんとするものあり此等の危險分子に對しては無形上の力は一も此の輩を恐れしむるに足らず其逆謀の實行を防ぎ得るものは單り軍隊の力なり。

即軍隊は内憂外寇を直接防止す且其教育は國民精神を振作して良民を作り國利民福を増進するを以て國防上最も重要な要素なり。

附 錄

團

報

◆尊い體験(若き方々)

社會教育主事 小野 廣

今は夏野菜收穫季にて、小車にて二回宛市場に出し一日八圓より拾圓位手に入れ、汗の貴さを痛感致して居ります。(下毛湯屋勘司) ○昨年九月中旬玉葱の種子を農會に依頼し、播種發芽後十一月中旬本田に移植、農會技術員帆足氏、塚脇校吉武訓導の指導の下に、本數千二百本許り栽培致しました。結果收穫量六十貫許りありました。夫は一個百四十匁周圍一尺一寸内外のものもありました。(玖珠河野健太郎) ○現今の世に處するの道は、實行の二字より外に何事も無いと思ひます。之から馬鹿になりきつた生活を致しませう。前月よりタイムスを出す様に致し創刊を十五日に出しました。内容も漸次良くなることと思ひます(宇佐東一) ○いつぞやのお話に女子は修養が不足とのお話がありましたから、その後はこの方面の實行へと努めて居ります、講習終了後三月四日から二日間お料理の講習を致しました衛生講習も開きました(東國東登川いや子) ○私方も農事小組合が設けてありますか………

私は何とかして青年小組合を設けたいと思ふのです。それについては健實な經營法をとりたいので、お話の湯屋農事小組合の經營方法を参考に承りたいと思ひます。(東國東伊東信雄) ○待ちこがれて居た青年訓練所の入所式も終へ訓練の第一歩は踏み出されたのです。前途に光明の世界が展開されるやうです。『進め』意志を強固に汗と愛に親しみ、我が住む里に一人の意者のない迄に而して感謝の生活をつづけよ』と神は我が心に鞭打つて下さいます。(大分郡佐藤實) ○今年ほど楽しく愉快に五十日間の奮闘をつづけた事はありませぬ。(直入片岡精) ○(速見渡邊悟) ○(南海部谷川涉) ○(大分岡本トヨ) ○(直入添田善雄) ○(直入吉野さら) ○(東國東宮本達夫) ○(直入秦かすみ) ○不肖私はいよゝゝ社會に出て眞に有用の人と爲り社會の爲國家の爲に盡したいと堅い信念の下に勞働の疲勞に堪へ毎夜机に親しんで居るもので、この若き力を以て強き根氣の下に伸び得る限り伸び強く、生き眞に有意義な人生を送りたいと思つて居ります(南海部御隣信夫) ○感謝報恩の念と専念勤敏は夢忘れて居りませぬ此際官民協力一致之が普及を圖ることが最大急

務と存じます(東京兵藤巨) ○耕作反別三町を去る八日(七月)を以てねづけを終へました三十八日間の繁忙季に大河原來氏への縣水産試験場依託養鯉に白熱を注ぎ鯉兒養育に努めました私はすべての事物に對して清らかな心を以て望む決心であります兩親も安心して下さるでせう(玖珠白石茂) ○「平凡生活の充實」私は之からこの貴い言葉のどほり尖つた鎌に敬虔な感謝を捧げ破れた野良着で土に親しむことの貴さをいつまでも忘れず暮さうと思ひます。私はお友達の青年に「棄石」といふことを話して慰めます。「道を作る時下の方に大きな石小さな石を澤山に入れて固めるだけ固めて土を入れる又石をおく土を入れる。上の方に綺麗な砂礫を置く……この道でも一番大切なのは上に並べるものではなくて下へ下へと踏込まれ永久に誰の目にも觸れない棄石である。お互百姓も大工も左官も工夫も別に功勞も認められずに働くみな棄石である。……我等百姓は三十年五十年碌な物も食はずにぼろを着て働いて之に對して凡て勳章もなければ位もいたぐけぬしかし之が棄石の貴い處だ人の眼に立たぬ處で眞心をつくして働く、その棄石のお蔭でこの國家が榮むる

います(宇佐植園崧) ○私は今後確な大信念の下に世の荒波を乗りきつて行かうと決心してゐます徒に流行を追ふ人は追ひ私は正しい道を進んで行きたいと思つてゐます(東國東高橋はるか) ○青年訓練所が行はれます私は缺席は無論遅刻の一度もしたことはありません不言實行主義を執行致して居ります私は胃腸が弱かつたのであります毎々の講習會等の國民體操を始めて以來全く弱いと思ふことがなくなりました健康體になりましたことを父母が喜んで呉れます本年徴兵検査に於て甲種輻重輸卒一番になりました(速見小野安夫) ○兄上と力を合して農事に熱心して居ります今年初めて甘藍と玉葱とを栽培致しました三百貫づゝ出来ました(大分郡井上永喜) ○重大な責任を負ふ我等たるかをつくく考へさせられますめつたに事業に手出をして失敗しようものならず今この青年はあてにならぬとかうきめられてしまひます机上で受けた座水練は實地に於て十中九まで沈むといふお言葉どほりいろゝの何式何式の稲作も随分困難かと思はれます……御話を承つて今一つ奮發して梶原式の成功を見んと在來の稲作法に植木式の早季苗代法を用ひ尙水量少き地方には

世の中が安全である百姓や工場の工夫たちが、みんなお役人様や議員様方のやうに自働車に立派な洋服姿で乗りまはり毎日あのやうな議論をしてゐたのでは日本が空ほの國になる棄石の貴さが「あれを見よ、深山の奥に花ぞ咲く眞心つくせ人知らずとも」その花の貴さだ、先生私はこの棄石の役目をはたすことがいつも御教訓の平凡生活の充實にかなふことが出来ると強い思ひを抱いてゐます、田圃に出て終日汗を流して働いてゐますこの上の學校に入られた友だちの姿が心に浮んでなんだかうした暮方が一生つまらなく淋しう思ふのでした。けれども今こそ本當によく分りました私たちの仕事は日本のために何はごやくに立つのか分りませぬそれでも思つて下さる方が一人でもあれば私たちは破れた野良着で一生仕事をつとけても悲しいとは思ひませぬ私たちは貴い日を送つてゐることがはつきりと分りましたほんごに仕合で御座います(宇佐河野重雄) ○恙なく焼けつくやうな田舎のサンマーを相手に不平もなく毎日田草取をしてゐます(西國東田原武司) ○毎日炎天下に田草取をして居ります本年徴兵検査には甲種合格でありました入營前の準備に忙はしう御座

日石式の乾田法を用ひ共に充分なる稻の發育を見るこゝとが出来三割以上の増收を想つて居ります(玖珠梶原景吉) ○今後は一意専心精神の修養につとめ往年の精神を一掃し如何なる誘惑にも打克ち三年五年の後には吾等四十三名の青年結束し偉大なる力を以て理想の青年村を作りたいた大なる覺悟と決心をいたしました(直入阿南武彦) ○彼は口にて申上げることが不可能ですが何かにつけ實行致したいと思ひます(直入阿南止) ○朝に禮拜晝は汗夜は寸陰を惜しみて勉強して居ります(直入倉橋榮) ○御教訓を守り大に修養して出来るだけ世の爲に盡したいと御誓する次第であります(直入河野武) ○炎天下に鐵腕を揮ひ汗の奮闘を遺憾なくつとめてゐるから安心せよとの便を寄せられた各位(四七、伊藤清) ○宇佐大隈光 ○大分松本又一 ○東國東溝部良守 ○直入波留多忠幸 ○東國東植田しが ○東國東堀八千代 ○玖珠佐藤頼松 ○東國東友枝いつよ ○東京佐藤濟 ○南海部山田慶治郎 ○東國東明石清子 ○直入上野ナラ子 ○東國東栗林幸作 ○宇佐柳田六郎 ○大分上野順平 ○大分市佐々木岩治 ○玖珠井上益雄 ○速見矢守武士 ○直入宮

本都 ○速見萩本孝登 ○下毛横松幸治 ○東京笠置千道 ○下毛石原新 ○毎日九十三度四度といふ殺人的の暑熱も弱虫黨に取ては實際夏は大脅威の的に相違ありませんやりきれんなんかいって弱虫のブル階級がさわいでゐる私共プロは九十度位な暑さにまけるやうでは農村の青年として生活することは出来ないのです大自然にでも叛逆して冒險的に押通さうといふ意氣込の前には何ものもありませぬ毎日炎暑と戦つて一粒たりとも多く作ることを骨折つてゐます夜も蚊にくはれつゝ社會の落伍者にならぬぞと目的に向つて少しづつ勉強してゐます(大分生野定) ○九十日間の教育期間を無事了して歸郷いたしました只今では毎日草取に多忙を極めて居ります唯一の避暑法は體一面を汗を以て洗ひ流すことにあると存じます(東國東田邊種吉) ○本村青年訓練所去月二十日開所式二十二日より二十六日迄五日間訓練人員三十八名熱心に致しました(直入添田時美) ○向上會文庫設立を計畫して居ります(大分平山敷夫) ○何か土産の一言と思ひ今日まで一書をも差上げませぬでした……私はその後講習會に於けるお話を宣傳して一人の共鳴者を得ました本年四十

歳です先生再會を期し誓つてやります大にやります。(直入阿南出馬) ○本月二十三日午前九時から青年處女の總會があります青年訓練を見せて下さるとのことです(東國東藤原静江) ○七月三十一日午前九時から待つた青年處女會が開かれました。二百餘名の會員はいつにかはらぬ元氣で希望に満ちた顔で出席せられました(東國東友枝いつよ) ○暑さ忘れて活動してゐるこのお便は(東國東福田則作) ○(速見荒金宣夫) ○(東國東友成千代子) ○(直入吉良唯市) ○(直入阿南義夫) ○(東國東川田さつき) ○(大分後藤一平) ○(速見荒木支部)

大分縣聯合青年團體育大會

九月廿六日大分中學校並大分工業學校運動場及大分武德殿に於て例年の通り縣聯合青年團大會を開催することとなり劍士撰定に關し本月四日社第一、六一八號を以て學務部長より大分、別府兩市長及郡聯合青年團長宛左記の通依頼した

縣聯合青年團體育大會ニ關スル件
例年ノ通體育會開催致度候ニ付左記ニ依リ貴郡市青

年團員ヲシテ參加方御高配ニ預リ度本年ハ郡役所廢止セラレ自治的活動ノ第一步ニ有之候條特ニ御協力相成昨年以上ノ好績ヲ收メ度候間各青年團へ洩ナク周知セシメ萬遺憾ナク取運度此段及御依頼候也

記

- 一、貴郡市町村青年團長へハ便宜貴下ヨリ傳達方御取計相成度
- 二、期日、場所等ニ就キテハ例ノ通縣教育會ヨリ通知ノ答ニ付御了知相成度
- 三、競技種目選手員數等ニ就キテハ昨年末縣聯合青年團評議員會ニ於テ協定致候次第ニ付詳細ハ本年七月初各青年團、處女會へ配附セシ大分縣青年團、處女會講座第一社會教育資料第十五輯團報六頁ニ掲載有之候
- 四、出場選手ノ優秀者ハ更ニ選抜ノ上昨年ノ通明治神宮競技大會へ出場セシムル見込ニ有之候

競技種目及選出方法

- (一) 競技種目及選手員數
 - 一、トラックフィールド 每郡市選手員數 二人

- | | | |
|--------|---------|----|
| 二百メートル | 每郡市選手員數 | 二人 |
| 四百 | 〃 | 二人 |
| 八百 | 〃 | 二人 |
| 千五百 | 〃 | 二人 |
| 一萬 | 〃 | 二人 |
| 八百リレー | 〃 | 四人 |
| 走巾跳 | 〃 | 二人 |
| 走高跳 | 〃 | 二人 |
| 砲丸投 | 〃 | 二人 |

- 一、劍道 每郡市選手員數 五人
- 一、相撲 〃 三人
- 別用紙ニ記入報告ノコト
- 一、柔道 〃 五人隨意
- (二) 年齢二十五歳以下トス年齢八月ヲ以テ計算ス
- (三) 選手
 - イ、選手ハ一人一技ニ限ル
 - ロ、選手ハリレーニ限リ兼ヌルコトヲ得

- (四) 選手ハ競技ノ種類ニ依リテ區別シ左ノ様式ニ依リ報告スルコト 但相撲ニ限リ別様式ニ據ル

報告様式

何郡市青年團選士名簿

氏名 生年月日 職業 市町村名 所屬團名

(五)選士期限九月十五日限
右報告ハ大分縣學務部長宛トスルコト

直入郡嶽村中堅青年

講習會概況

七月二十六日 晴

中堅青年ヲ中心トシテ青年團總會處女會ヲ開催、當日ハ全村特ニ休日トシ團員會員ハ勿論各戸一人以上出席ス總數實ニ六百餘名
定刻午前十時開會、山室副團長開會辭詔書令旨奉讀、會務報告、阿南團長式辭次ニ優良支部優良青年ノ表彰式ヲ行フ
一、吐合青年支部(第五區)
一、阿南 勝

一、栗尾 滿 養

小野社會教育主事ノ祝辭、阿南勝答辭閉式
午後講演 小野社會教育主事約二時間ニ亘リ熱心ナル講演アリ、終了後村會議員、區長、學務委員青年支部長、農事實行小組合長及役場、學校職員約六十名會合ノ上村ノ自治發展上ニ就キ留意ナキ懇談會ヲ催ス
午後四時半
中堅青年講習會場タル祖母山麓ノ神原字吐合公會堂ニ集合

講習會員(各支部選拔者四十三名)

午後七時半會員ハ勿論村長、校長外學校職員、役場吏員、青年團役員、區民集合開會 教育勸語捧讀(會員一緒ニ)小野主事ノ講習ノ意義及共同生活ノ要諦ニ關スル講話(一時間半)禮拜、默想九時半一同就床

第二日七月二十七日 (晴) 八十六度

午前四時半起床、會場ノ整頓整理ノ後、直ニ縣社健男霜凝日子神社ニ參拜、黍明ノ神氣身ニ泌ムノ時、一同神殿ニ靜座シテ禮拜、更ニ伊勢太廟、明治神宮

遙拜、教育勸語ノ奉讀(一同ニ)社前ニテ國民体操ヲシ境内ノ大掃除ヲ爲シテ歸場、六時朝食、七時ヨリ十一時半マデ小野主事講話、中食休憩午後一時ヨリ三時マデ講話、休憩体操四時ヨリ五時半マデ講話休憩六時夕食

七時半ヨリ會員感想發表會ニ移ル

座禮ノ練習、人員點呼住所氏名發表アリテ各々所感ノ發表ニ移ル

所感發表者會員二十名、傍聽者及幹部側八名アリ而シテ會員四十三名ハ茲ニ誓ツテ次ノ二項ヲ實行スルコトニ誓約シタリ

1. 煙草ハ今後一切口ニセヌコト
 2. 頭髪ハ長ク延バサヌコト
- 會員ノ熱烈ナル意氣ニヨリテ之ヲ斷行スルコトニ決定セリ

吾々會員以外ニ

村青年支部長ハ勿論村内ノ有志者區民約七十餘名熱心ニ應講セリ。禮拜アリテ九時半就床

第三日 七月二十八日 (晴) 八十五度
午前四時半起床村社池社ヲ參拜、伊勢太廟、明治神

宮ノ遙拜、國民体操掃除(會場ヨリ約十町)歸リテ朝食

午前七時半ヨリ講話、午前十一時半マデ、中食、閉會式茶話會解散

一般援助

1. 村ニ第一日ハ全村休日トシ第二日ハ雨乞祭ヲ縣社ニ爲シ多數出席スル機取計ヒテ參集ニ便セリ。

2. 第五區(會場所在地)

A 會場ノ提供、公會堂(五間ニ三間半三十五枚敷)之ニ特ニ疊三十五枚ヲ敷キ、便所ヲ作り、黑板ヲ設ケ机ヲ備フ

B 炊事場

近所ノ家二軒ニテ奉仕的ニ之ニ當ル

C 處女會員婦人會員ノ活動

(イ)炊事一切ヲ引受ク

(ロ)餅ヲ作りテ全會員ニ配布ス

D 其他一切ノ準備ヲ萬事引受ケ周到ナル注意ノ下ニ遺憾ナク行ハレタリ。

役員

應待係 阿南村長、山室校長

會場係 訓導後藤玉夫、三宮君男、田北長、技術員
 衛藤吉彦、第六區長阿南才一郎、第五區副支部長
 阿南嘉久馬

炊事係 助役野中百市、訓導内藤壽人
 第五區長齋藤由太郎 第六區支部長三田井廣士
 全支部長阿南末市 第八區支部長阿南龜彦
 全評議員佐藤幸雄 第九區支部長吉川嘉澄
 第五區有志阿南安太郎 第一區支部長阿南一夫
 第五區支部長齋藤太一郎 第四區支部長阿南金馬
 倉木支部長佐藤清磨

姫嶽村中堅青年講習會員

一班	吉川 鑑男 堀 東 小出 力
二班	渡邊 茂 阿南 義夫 阿南 止
三班	阿南 結 沖 政 吉
四班	阿南 久 高 山 作 夫 高 野 勇
	阿南 剛 倉 橋 榮 佐 藤 政 則
	阿南 出 馬 入 田 宗 馬 阿 南 久 達 見
	阿南 龍 馬 阿 南 正 一 阿 南 久 義
	阿南 哲 夫 阿 南 二 夫 甲 斐 久 明
	阿南 桂 馬 阿 南 俊 作 小 崎 國 夫
	阿南 德 馬 栗 尾 滿 義 三 田 井 桃 夫

五班	穴見 一 柘馬 佐盛 阿南 二男
	木下 壽行 宮本 都 相馬 二男
	吉良 只一 阿南 正 木下 貢

◆南海部郡青年大會

八月二十五日佐伯小學校庭ニ開催、午前中ハ講話午後
 ハ同校運動場ニ於テ縣聯合青年團體育會出場選士ノ豫
 選會ヲ開ク、當日ノ講師トシテ大分縣事務官加藤初夫
 大分聯隊區黒岩大尉兩氏ノ講話アル等

◆北海部郡中堅青年講習會

八月二十五日ヨリ二十八日マデ四日間白杵中學校ニ於
 テ開會講師トシテ同村白杵中學校長、小野社會主事其
 ノ他ノ講話アル等

◆速見郡中堅青年講習會

八月二十五日ヨリ二十七日マデ三日間杵築中學校ニ於
 テ開會講師ハ井上杵築中學校長、加藤大分縣事務官其
 ノ他數氏ニシテ加藤事務官ハ特ニ普通選舉ノ講題ノ下

ニ講話アル等

◆宇佐郡青年團

大正十五年八月以後行事豫定表

- 八月 青年團 運動競技指導員講習會(大分)
 (教育會ヨリ五名派遣)
- 九月 郡豫選體育會
- 十月 縣聯合體育會
- 二月 總會(中旬)
- 三月 中堅青年講習會(下旬)

◆運動競技指導講習會

八月十八日ヨリ二十一日マデ四日間大分縣師範學校ニ
 於テ大分縣主催ノ下ニ開會講師ハ内務省囑託財團法人
 獎勵會主事出口林次郎氏デアル

◆勿體ない

○汗の體汗の手を休める暇もなく、その忙はしい中純

283
1449

てゐる方も随分世間には多いやうである。お互青年
處女の方は前途が長い。力の善用を工夫して最高能
率をあげるやうに、人にもあげさせるやうに常に考
へたいものである。

○之はこの頃である。返信料として穴のあいて
る白銅貨を封入してよこした方があつた無論私宛で
もなければ青年處女の方でもなかつた。課中の人々
がビツクリした。ようまあ無難で三錢で届いたもの
とあけた口がふさげなかつた。之は勿體なすぎて迷
惑な方である。今でも案外利口相な方が紙幣を封入
して郵便法違反で罰せられるさうだがお互はこの邊
は深く注意せなければならぬ。

大正十五年八月廿二日 印刷
大正十五年八月廿五日 發行
【非賣品】

大分縣社會課

大分縣大分市南新町二七一三

印刷者 島 山 一 夫

大分縣大分市南新町二七一三

印刷所 豊州印刷所

終